

# いちはら歴史のミュージアム事業基本計画

「上総、そして市原へ 一昔と今をつなぐ旅」

平成 29 年 9 月

市原市教育委員会



## 目 次

I	計画策定の趣旨と基本事項	
1	計画策定の趣旨	1
	(1) 「いちはら」の悠久の歴史	
	(2) 歴史遺産の価値と計画策定の意義	
2	計画の基本事項	2
	(1) 基本理念	
	(2) 計画の位置付け	
	(3) 計画の概要	
II	事業活動計画	
1	基本方針	5
2	事業活動の構成と内容	7
	(1) 歴史をつなぐ	
	(2) 人をつなぐ	
	(3) 歴史を活かす	
	(4) 魅力の発信	
	(5) 次世代につなぐ	
III	施設計画	
1	基本方針	17
2	整備予定地と利用計画	18
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 整備予定地の概要	
	(3) 施設の規模と構造	
	(4) ライフサイクルコスト縮減への取組	
	(5) 整備予定地の周辺環境	
	(6) 整備予定地周辺の既存施設配置図	
	(7) 整備予定地の敷地条件	
	(8) 交通アクセスへの対応	
	(9) 埋蔵文化財調査センターの概要	
	(10) 埋蔵文化財調査センター既存平面図	
	(11) 敷地利用計画	
3	施設の諸室と内容	28
	(1) 必要となる諸室と規模	
	(2) 施設機能の構成イメージ	

4	施設整備イメージ	31
5	公開承認施設への対応	32

#### IV 展示計画

1	基本方針	33
2	「いちほら」の成り立ち	34
3	展示の構成	36
	(1) 常設展示	
	(2) 企画展示	
	(3) フィールドガイダンス展示	
	(4) 市民参画型展示	
	(5) 歴史体験展示	
4	可変型展示手法の採用	46
	(1) 可変型展示の展開イメージ	
5	展示のテーマ構成	48
	(1) 常設展示テーマ	
	(2) 展示テーマの主なねらい	
	(3) 展示の概要	
	(4) 展示の構成イメージ	

#### V 管理運営計画

1	基本方針	55
2	管理運営の方法	56
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 管理運営の体制	
	(3) 管理運営の形態	
	(4) 開館形態	
	(5) 利用者サービス	
3	事業評価の実施	61
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 諮問機関等の設置	
	(3) 評価指標の設定区分	

#### 資料編

1	基本計画策定懇話会等の検討経緯
2	基本計画策定懇話会等参加者一覧
3	開館までのスケジュール

# I 計画策定の趣旨と基本事項



## 1 計画策定の趣旨

### (1) 「いちはら」の悠久の歴史

「いちはら」の地が人々の生活の舞台となってから、3万年の時が流れました。古代には国府・国分寺が置かれ、中世には鎌倉幕府の庇護のもと、房総の拠点として栄えました。戦国の混乱した時代を経て、江戸時代には大名領や旗本領、幕府直轄領となり、様々な江戸の文化が伝わり、現代にも受け継がれています。明治から大正時代の鉄道敷設とともに近代化が進み、昭和30年代に遠浅の海が臨海工業地帯に姿を変えると、市原市は新たな躍動の時代を迎えました。



上総国分尼寺跡復元建物

### (2) 歴史遺産の価値と計画策定の意義

悠久の歴史を積み重ねてきた「いちはら」の地には、先人たちによって培われてきた貴重な歴史遺産が数多く残されており、それは「いちはら」の証であり、アイデンティティの根源となるものです。

このような歴史遺産の価値と魅力を広く市民と共有し、郷土への誇りと愛着を育むとともに、歴史遺産を地域資源として活用し、歴史遺産を支える人材の育成や新たな交流の創出につなげるため、「いちはら歴史のミュージアム事業基本計画」を策定し、歴史遺産を核とした様々な事業を展開しようとするものです。

## 2 計画の基本事項

### (1) 基本理念

#### 「歴史をつなぐ、人をつなぐ」

- ① 歴史をつなぎ、地域の魅力を高める  
身近にある歴史遺産に光を当てて、市民との協働によりその価値を顕在化し、歴史的特性を示すストーリーやテーマに沿って「歴史をつなぎ」、地域の魅力として磨き上げます。
- ② 人をつなぎ、地域を活性化する  
地域の主体的な活動や、市民の積極的な参画を促すことで「人をつなぎ」、歴史遺産の保存・継承への参画と交流を創出することで、地域の活性化と新たなまちづくりにつなげます。

### (2) 計画の位置付け

- ① 「市原市総合計画」を先導する先行的施策である「市原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の一つである「子どもたちの未来へつなぐ確かな教育の推進と文化の振興」を実現するための事業
- ② 「市原市総合計画」の個別計画となる「市原市文化振興計画」の基本理念である「ひと輝き まち輝く 文化の香り高いまち いちはら」を実現するための事業

### (3) 計画の概要

- ① 市民の「誇りの創生」に向け、市民との協働による歴史遺産を核とした活動を継続的に行います。
  - 市内に点在する歴史遺産を核とした活動を通して、地域文化の保存・継承とコミュニティ意識の醸成を図り、「地域の活性化」につなげます。
  - 「いちはら」の未来を担う子どもたちが歴史遺産に親しむ機会を設け、「地域への愛着」を育みます。
- ② 歴史遺産の価値と魅力をわかりやすく伝えるとともに、市民の主体的な活動と交流の拠点となる施設として、「(仮称) いちはら歴史館」の整備を進めます。



### 歴史をつなぐネットワーク

いちはらの様々な歴史遺産を関連付け、価値と魅力を磨く

いちはらの歴史をつなぐ、かつての生業海苔とりと工業地帯。

菊麻(くくま)の国造たちが眠る一帯。菊間の地名とともに大規模な古墳群が残されている。

上総国府をつなぐ 柳植神事

伝説に生きる将門

近代の夜明け

ものふの信仰

国登録文化財 小湊鐵道駅舎群

かすさ中核

国分尼寺

国分僧寺

地域をつなぐ 里山の道標

鶴峯八幡十二座神楽

上総国分僧寺跡西門  
上総国分寺は全国最大級の規模を誇る。  
最古の銘文、「王賜」銘鉄剣

上総国分尼寺跡復元中門・回廊

全長130m、県指定史跡姉崎天神山古墳は、当時、南関東で最大級の前方後円墳である。

椎津城をつなぐ 椎津カラダミ

木造金剛力士立像  
・薬師三尊像他  
(皆吉橋禪寺)

西願寺阿彌陀堂 (平蔵)

鳳来寺観音堂 (吉沢)

近代の夜明け  
明治維新期にまちづくりが行われた。  
鶴舞小学校には鶴舞城の遺構が残る。

ものふの信仰  
武士たちは、仏教を精神のよりどころとした。  
国指定の西願寺阿彌陀堂は、明応4年(1495)に鎌倉の名人大工によって造られた。

市内に点在する歴史遺産と歴史的特性



## Ⅱ 事業活動計画



## 1 基本方針

市民とともに地域の歴史遺産を探求し、展示や体験学習を通じてその価値を共有することで理解と関心につなげ、地域への誇りと愛着の心を育みます。

市内全域をミュージアムと捉え、地域で行われる活動と拠点施設で行われる活動を双方向的に連携させて、相乗効果を生み出します。また、地域の歴史的特性を的確に捉え、近隣自治体とも連携して活動の輪を広げることで、更なる交流の促進を図ります。

事業活動は5つの大きな柱で構成します。それぞれの活動を相互に連携させ、各活動を好循環させることで、「歴史をつなぐ、人をつなぐ」ネットワークを構築します。

### ① 歴史をつなぐ

貴重な歴史遺産を探求し、確実に保存継承します。テーマやストーリーによって個々の歴史遺産を関連付けて、価値を高めます。

### ② 人をつなぐ

活動を通じて、人と人、地域と地域を広域的に結び付け、歴史遺産の価値を共有します。歴史遺産を支える人づくりを行います。

### ③ 歴史を活かす

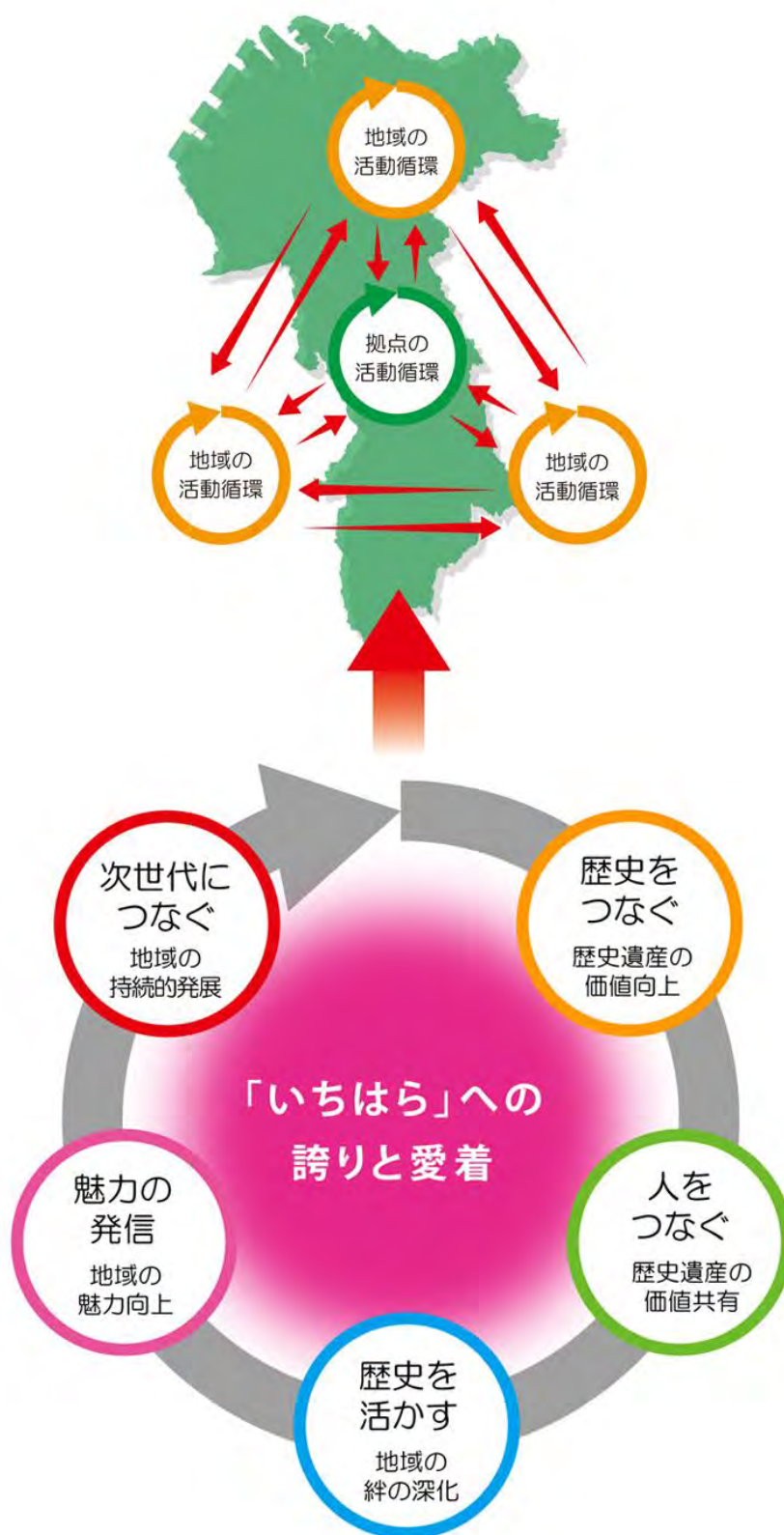
展示等を通じて、歴史遺産の価値をわかりやすく伝えます。歴史遺産の特色を生かした取組を展開して、地域の絆を深めます。

### ④ 魅力の発信

歴史遺産の価値と魅力を多くの人に知ってもらうことで、地域の魅力を向上させ、交流人口の拡大につなげます。

### ⑤ 次世代につなぐ

歴史文化の大切さを知ってもらうことで、地域への誇りと愛着を育み、歴史遺産の継承につなげます。



地域と拠点の活動循環イメージ

## 2 事業活動の構成と内容

### 歴史をつなぐ

#### 収集保存事業

いちはらの地域文化を特徴付ける、民俗・考古・歴史資料等を収集し、保存・管理します。

#### 調査研究事業

いちはらの歴史文化の成り立ちを解明するため、幅広いテーマで継続的に調査研究を行います。

### 人をつなぐ

#### 協働調査研究事業

地域住民を主体とし、市民参画を得て、幅広いテーマで継続的に調査研究を行います。

#### 地域連携事業

地域住民が行う調査・普及活動を支援し、情報・意見交換等、地域間をつなぐ活動を行います。

#### ボランティア育成事業

地域の活動を担う人材を育てるとともに、やりがいや生きがい、交流の機会を創出します。

### 歴史を活かす

#### 公開展示事業

拠点施設で常設・企画展示を行うほか、現地の歴史遺産もフィールド展示として活用します。

#### 教育普及事業

市民の学習活動を支援するため、展示解説やワークショップ、各種講座・講演会等を開催します。

### 魅力の発信

#### 情報発信事業

情報通信技術（ICT）等を活用し、活動成果やいちはらの歴史遺産の魅力を広く発信します。

### 次世代につなぐ

#### 体験学習事業

参加体験型の学習メニューを取り入れ、子どもたちが楽しく歴史文化に親しむ機会を設けます。

#### 学校連携事業

展示解説や学習活動の支援のほか、学習教材の開発や各種情報の提供、出前授業などを行います。

## (1) 歴史をつなぐ

博物館の基礎とも言える活動です。市民の知恵袋となり、歴史遺産の価値を向上させるための事業です。

「歴史をつなぐ」の「つなぐ」は、2つの意味を持ちます。1つは市内の貴重な歴史遺産（モノと情報）を確実に「保存継承」していくこと、もう1つは歴史遺産の価値を向上させるため、テーマやストーリーによって個々の歴史遺産を「関連付ける」ことです。

### ① 収集保存事業

いちはらの地域文化を特徴付ける、民俗資料、考古資料、歴史資料、産業資料を、寄贈・寄託等により系統的に収集し、適切に保存・管理します。また、「収蔵資料管理システム」によるデータベース化等により、デジタルアーカイブを構築し、広く公開・活用できる環境を整備します。実物の収集が不可能な資料については、レプリカの作成や写真・図面等により記録を行うほか、資料に関する情報についても、併せて収集を行います。

なお、資料の収集に当たっては、何を、どの地域から、どのような方法で、どこに集めるか等の具体的な事項を、収集方針として取り決めておく必要があります。

#### 【想定される収集資料】

- ✓ 民俗資料  
生活、技術、風習、信仰、伝承、芸能等に関する資料
- ✓ 考古資料  
発掘調査等により出土した遺物、遺跡等に関する資料
- ✓ 歴史資料  
古文書、古記録、古写真、古絵図、公文書、映像、音声等に関する資料
- ✓ 産業資料  
産業、工業等に関する資料

### ② 調査研究事業

いちはらの歴史文化の成り立ちを明らかにするため、幅広いテーマで調査研究を継続的に行います。

市内に点在し、一見無関係に見える個々の歴史遺産も、ストーリーやテーマに沿って総合的に捉えることでつながりを持ち、地域資源としての価値が高まるとともに、理解しやすくなります。例えば、飯香岡八幡宮いいがおかの秋季大祭の特殊行事である「柳楯神事」やなぎだてしんじは、神が降臨する霊木とされる柳にまつわる



神事で、国府に関連する祭礼の姿を今に伝える事例とされています。歴史につながりを持たせることで、日々の生活に溶け込み、その価値に気が付きにくい年中行事等の伝統文化についても再認識するきっかけとし、継承に結び付けます。

調査研究事業は、市外の博物館や大学、研究機関等と広域的に連携し、共同テーマによる調査研究活動や企画展示の共同開催等の充実を図り、ネットワークを拡大します。

【想定されるテーマ】

- ✓ 年中行事
- ✓ 祭りと神事
- ✓ 里山の道標
- ✓ 出羽三山信仰
- ✓ 富士信仰
- ✓ 上総唐箕
- ✓ 上総鑄物師
- ✓ 塩づくり
- ✓ 海苔づくり
- ✓ 炭焼き
- ✓ 養老川の舟運
- ✓ 江戸・東京湾の五大力船
- ✓ 学校所蔵の郷土・教育資料
- ✓ 郷土の偉人
- ✓ 戦争の記憶
- ✓ 市原市の誕生

【想定されるストーリー】

- ✓ 臨海過去未来 貝塚・海苔づくり・塩田・工場地帯
- ✓ 上海上の王陵 かみつうなかも 姉崎天神山古墳・姉崎二子塚古墳
- ✓ 伝説に生きる将門 奈良大仏・古都辺・永吉
- ✓ いざ鎌倉 鎌倉街道・鶴峯八幡十二座神楽
- ✓ 戦国乱世と里見氏 椎津城跡・琵琶首館跡・宝林寺
- ✓ 古街道を往く 房総往還・久留里街道・江戸道
- ✓ 彫工 波の伊八 しんこうじ 真高寺・こうごんじ 光厳寺
- ✓ 明治初年の藩 鶴舞藩・菊間藩
- ✓ 養老川と地磁気逆転期地層 川廻し跡・素掘り隧道 すいどう

## (2) 人をつなぐ

市民とともに行う活動であり、地域を活性化させるとともに、いちはらの歴史遺産を支える人づくりを行う事業です。

「人をつなぐ」の「つなぐ」は、2つの意味を持ちます。1つは地域で行われる様々な活動を通じて「人と人」を結び付けていくこと、もう1つは歴史遺産の価値を共有するための活動を通じて「地域と地域」を結び付けていくことです。

### ① 協働調査研究事業

日々の生活の中で営まれてきた年中行事等の民俗文化財は、分野も幅広く、市民との協働でなければ調査は成り立ちません。既に地域の公民館等で活動している団体や研究者のほか、市民学芸員（歴史文化リエゾン）や市民ボランティアをはじめとする多くの市民が活動に参画できる仕組みを整えます。

調査研究活動は、博物館から、あるいは市民からの提案で重点テーマを設定し、共通の目的意識のもと、各地域と協力して、分布調査、所在調査、記録調査、聞き取り調査等を行います。

### ② 地域連携事業

博物館は地域連携の拠点施設としての機能を果たすと同時に、地域が主体的に行う調査研究活動や成果発表、現地説明会、体験交流会等の普及活動を支援するほか、個人と地域、地域と学校、地域と地域をつなぐ、コーディネーターとしての役割を果たします。

重点テーマに沿って各地域で行われた調査研究の成果を、拠点となる博物館に持ち寄り、情報交換や意見交換の機会を設けるなど、地域間、世代間、ボランティアと来館者等が交流や連携を深め、地域の歴史遺産の価値を再発見し、共有する仕組みづくりを行います。

### ③ ボランティア育成事業

地域や博物館で行われる活動を活発にするためには、活動に関わるボランティアの存在が欠かせなくなってきました。市内には専門的な知識や技術を持った人がたくさんいます。特に、地域の歴史や文化に関する豊かな経験や知恵を持つシニア層に、活動に積極的に参画してもらうことが有効です。

ボランティア活動には様々な種類や形態がありますが、活動を行うためには、知識や技能を習得するための学習が必要です。ボランティアや市民学芸

員（歴史文化リエゾン）育成プログラムの作成や、各種研修機会の充実を図り、ともに活動する仲間を増やしていく必要があります。

ボランティア活動を続けることは生涯学習であり、やりがいや生きがいを創出するとともに、同じ目的を持った人たちや子どもたちとの世代を超えた交流の場にもなります。



市内伝統行事の調査



ボランティア活動と世代間の交流

### (3) 歴史を活かす

市民協働による調査研究活動で高められた歴史遺産の価値は、展示や講演会、発表会等を通じて、より多くの市民にわかりやすく伝える必要があります。また、市外に向けて広く広報活動を行うことで、交流人口の拡大を図ります。

歴史遺産を知ることは、地域のアイデンティティを再確認し、地域の絆を深めることにも貢献します。歴史遺産は地域にとってかけがえのない財産、そして誇りであり、その特色を活かした取組を展開することで、地域、そしていちはらの魅力として高めます。

#### ① 公開展示事業

展示構成は、常設展示と企画展示を基本に構成するほか、市内各地に点在する歴史遺産についても、フィールド展示（屋外展示）と捉え、地域住民との協働により、積極的に活用を図ります。

##### ア 常設展示

常設展示は博物館の顔であり、来館者がいちはらの成り立ちや歩みを一目で知ることができなければなりません。通史展示とともに、里山の生活や海辺の生活等、「いちはら」を特徴付けるテーマ展示を行います。また、国産最古の有銘鉄剣であり、「いちはらの至宝」とも言える「王賜」<sup>おうし</sup>銘鉄剣<sup>めいてっけん</sup>を常設展示できる環境を整えます。

##### イ 企画展示

収蔵資料等に関する最新の調査研究成果を、博物館主催の企画展として随時実施するほか、いちはらの歴史遺産を多角的な視点で紹介する特別企画展では、重要文化財を含む関連資料を市内外から借用して行います。

また、各地域で行われた調査研究の成果を持ち寄り、市民主催の企画展や報告会、発表会を開催することで、地域間の交流を図るとともに、やりがいや地域の誇りを創生します。

##### ウ フィールド展示

史跡や道標、小湊鉄道駅舎群等、現地に存在する歴史遺産はフィールド展示と捉え、モデルコースを設定して、ルート上に存在する様々な歴史遺産をめぐる。

地域で行われた調査研究活動の成果は、それぞれの地域で発表することを基本にします。公民館やコミュニティセンター等の施設と連携して成果を公開することで、地域住民に歴史遺産の存在と価値を再認識してもらう

ことが可能になります。また、フィールド展示見学や体験イベント等の交流事業を展開することで、地域の活性化にもつながります。

## ② 教育普及事業

来館者の主体的な学習活動を支援する活動で、展示解説や講座・講演会等を通じて、いちはらの歴史文化を理解し、地域を見つめ直すきっかけとします。

### 【想定される教育普及事業】

- ✓ 展示解説・ガイドツアー 講義型・対話型解説
- ✓ マルチメディアガイド タブレット型端末による個別解説
- ✓ バックヤードツアー ミュージアムの裏側を見学
- ✓ レファレンスサービス 学習相談・資料閲覧
- ✓ ワークショップ 双方向的な学習
- ✓ 講演会・シンポジウム 講義型・協議型学習
- ✓ 移動博物館・出前講座 地域連携・学校連携
- ✓ フィールドワーク 地域の歴史遺産めぐり
- ✓ 職場体験・博物館実習 社会学習・人材育成
- ✓ ボランティア・市民学芸員育成 生涯学習・人材育成

#### (4) 魅力の発信

いちはらの歴史遺産の魅力を広く伝えるための活動で、地域の活性化や交流人口の拡大を図るうえで欠かすことのできない事業です。

博物館の活動のほか、市民から寄せられる地域の魅力ある情報を広く集約し、発信できる体制を整備します。

##### ① 情報発信事業

博物館の利用案内やイベント案内等の情報のほか、展示内容や収蔵資料、調査成果等の情報をわかりやすく整理し、価値と魅力を多くの人に知ってもらう必要があります。

近年は、資料目録や画像など様々な情報をデジタル化してデータベースで管理し、ウェブサイト上で一部を公開するようになってきました。情報通信技術（ICT）を応用した情報提供は、いつでも、どこでも、誰でも利用することから、これらのコンテンツを充実させます。また、学校教育での調べ学習にも対応し、わかりやすく、正確な内容で伝えるように工夫します。

平成 28 年度からは「収蔵資料管理システム」を導入し、収蔵資料のデータベース化と埋蔵文化財調査センターウェブサイト上での先行公開を開始しています。また、博物館開設に向けた様々な活動についても、アーカイブしておく必要があります。これらは、将来的に博物館専用ウェブサイトへの統合を想定しており、開設に向けて、コンテンツの構成や編集管理、セキュリティ機能、サーバー形態等の整理と検討を行います。

ウェブサイトはバーチャルな博物館そのものであり、館が所有する様々な情報を広く公開する場となります。また、双方向性やタイムリー性に富む SNS を活用するなど、どれだけ多くの情報を、魅力的に伝えることができるかが、利用者の利便性向上と来館者数拡大の鍵となります。

この他、スマートフォン用ナビゲーション・ツールと連動させて、現地の歴史遺産に関する案内情報を発信し、これに併せて、周辺の観光スポット、イベント案内、食事処等の情報提供を、庁内各部局との連携により行います。また、新聞・雑誌・放送等、マスメディアに向けた PR 活動にも積極的に取り組み、交流の拡大と地域の活性化につなげます。

##### ② 出版物刊行事業

展示図録、解説書、研究報告書、活動報告書、普及冊子、映像資料等を出版し、地域とミュージアムの活動成果を広く公表するとともに、市民が学習や研究を行うための材料とします。

## (5) 次世代につなぐ

地域の歴史文化を守り、継承していくためには、いちはらの次代を担う子どもたちにその大切さを知ってもらうことが重要です。子どもたちがいちはらの歴史文化に親しむ機会を数多く設け、世代を超えた交流を通じて、伝統文化に対する興味と関心につなげ、地域への誇りと愛着の心を育むことで、歴史遺産の継承と定住人口の拡大に結び付けます。

### ① 体験学習事業

子どもたちが歴史文化を深く理解するには、「見る」に加えて「参加する・体験する」という要素が必要です。展示で歴史遺産を知り、体験学習を通じて実感することで、「学びたい・調べたい」という気持ちに発展させます。

体験学習事業は、これまで埋蔵文化財調査センターが担ってきましたが、夏季休業期間中の数日間限定されています。また、メニューも勾玉づくりや貝輪づくり等の古代体験が中心です。博物館では、これまで活用する機会がなかった民具等の暮らしに関わる道具を使った体験学習を行い、生活の変化や先人たちの苦労を考えます。少し昔の暮らし体験では、実際に生活を体験したシニア層に協力してもらうことで、説得力が増すとともに、世代間の交流にもつながります。

このほか、臨海部をはじめとする市内の企業が持つ、ものづくりの技術を応用した実験方式のメニューについても、企業や企業 OB との連携を図りながら行います。

博物館は、子どもや親子、観光客にとって、楽しい体験や出会いにつながるようなメニューを開発します。

#### 【想定される体験学習メニュー】

- ✓ 古代ものづくり体験      土器づくり・火おこし・草木染
- ✓ 少し昔の暮らし体験      石臼挽き・海苔づくり・明かりの歴史  
縄ない・唐箕
- ✓ 考古学体験                  疑似発掘・遺物水洗・古代食試食
- ✓ 現代産業体験                科学実験

### ② 学校連携事業

市内の児童・生徒による歴史学習、地域学習、自由研究等を支援します。展示見学では、職員やガイドボランティアが付き添い、わかりやすく解説を行うほか、体験学習事業との組み合わせによる利用も行います。

学校や教育センターとの連携を図り、学習指導要領や指導計画に対応した児

童・生徒向けワークシートや教職員向けの博物館活用ガイドを作成するほか、出前授業等の学習支援プログラムを用意し、より利用しやすい環境を整備します。

市内の小学校には、地域の住民から寄贈された民具等、郷土学習のための資料が多数保管されています。各地域の市民ボランティアとも連携し、郷土資料の活用と世代間交流を図るほか、地域の歴史遺産を紹介するガイドマップを作成し、まち探検等のコース案内に役立てます。

中学生や高校生の利用者が少ないことは、どの博物館もが抱える課題です。学業や部活動で忙しくなることが要因とも言われていますが、これまでの学校連携が小学校の利用に偏っているという側面もあります。土日曜日や休業期間等にワークショップを開催するほか、職場体験等の機会を通じてアンケートを実施したり、博物館ボランティアへの参加を促すなど、中学生や高校生にも足を運んでもらう取組を進めます。



市内小学生の歴史学習



市内小学校への出前授業



### Ⅲ 施設計画



## 1 基本方針

- － 歴史をつなぐネットワークの要、  
人をつなぐネットワークの活動・交流拠点 －

### 「(仮称) いちはら歴史館」

「いちはら」の貴重な歴史遺産を後世に確実に継承し、その価値を共有するための展示と体験学習を行うとともに、市民の主體的な活動・交流の拠点となる施設を整備します。

① 活動・交流拠点としての役割を果たすため、多様な世代が集い、繰り返し訪れてもらえるような、開かれた施設として整備します。

市民等が快適かつ積極的に利用できるような施設計画とします。

② 利用者が地域の歴史文化を理解し、興味と関心を高めるため、参加・体験型の学習施設を整備します。

貴重な資料をもとに「いちはら」の歴史の特徴を明らかにするとともに、歴史を体験し、楽しみながら学べる施設計画を行います。

③ 貴重な歴史遺産の収蔵・展示に相応しい施設とするため、重要文化財公開承認施設の基準に基づいた整備を行います。

貴重な資料を適切に収集・保管できる設備を用意するとともに、安全かつスムーズな資料動線の確保を行います。

④ 周辺に所在する歴史遺産をフィールドミュージアムと捉え、一体的な活用ができるような整備を行います。

周辺歴史遺産との連携を考慮し、これらと結びつける機能を施設内に整備し、利用者が利用しやすい配置とします。

⑤ ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが利用しやすい施設として整備します。

施設全体にユニバーサルデザインを導入し、全ての人が利用しやすい施設構成とします。

⑥ 環境負荷の低減に取り組み、効率的な施設維持管理ができるような整備を行います。

省エネルギー化と低コスト化を図り、効率性やメンテナンス性を考慮した施設整備を行います。

## 2 整備予定地と利用計画

### (1) 基本的な考え方

#### ① 施設周辺への展開

「いちほら歴史のミュージアム事業」では、市内全域をミュージアムとして捉えます。活動・交流の拠点となる「(仮称)いちほら歴史館」は、施設単体で完結するのではなく、フィールドミュージアムを構成する周辺の歴史遺産との一体的な活用を図ります。

#### ② コスト意識

施設整備に当たっては、イニシャルコスト(初期費用)はもちろんのこと、ランニングコスト(維持費用)まで含めたトータルコストの意識を持つ必要があります。施設整備の規模や内容についても慎重に検討し、既存施設の有効活用や施設機能の重複を避けるなど、無駄な投資を省きます。

#### ③ 公共資産マネジメント推進計画との整合

市原市では平成28年3月に「市原市公共資産マネジメント推進計画」を策定し、「施設の質と量の最適化」や「ライフサイクルコストの縮減」等に向けた取組を進めています。

また、現在「市原市公共施設再配置基本方針」を策定中であることから、施設の整備に当たっては、これらの計画等の整合性を図ります。

#### ④ 施設へのアクセス

来館者の利便性を考慮し、公共交通機関の路線が近くに整備されているとともに、大型バスも駐車できる駐車場が確保され、個人や団体の利用に対応することが必要です。

#### ⑤ 博物館機能の確保

収集保存・調査研究・公開展示・教育普及は、博物館の基盤となる機能であり、不可分なものであることから、これらの機能を一体的に整備します。

## (2) 整備予定地の概要

施設整備地の選定に当たっては、前述した(1)基本的な考え方①～⑤の視点から検討を行い、「埋蔵文化財調査センター及びその隣接地」が適地であると判断しました。

埋蔵文化財調査センターは、全国的にも優れた歴史遺産が高密度に分布する地域に位置し、歴史的周辺環境に優れます。また、当該施設をリノベーションすることにより、収集保存・調査研究・公開展示・教育普及の機能が一体的に整備され、既存施設に博物館という新たな価値を創出することができます。



埋蔵文化財調査センターでは、これまでに企画展示会、体験講座、講演会を開催するなど、博物館活動に直結するノウハウも蓄積しており、施設と人材(学芸員)が集約されることにより、効率的かつ効果的な施設整備と運営が実現します。

### (3) 施設の規模と構造

博物館としてのリノベーションを予定する埋蔵文化財調査センターは、今後も調査組織としての機能は存続するため、現状の延床面積(2,557,18 m<sup>2</sup>)だけでは「公開展示・教育普及・情報提供」のための機能を加えることができないことから、800~1,000 m<sup>2</sup>程度の増築が必要になると見込まれます。耐震・耐火や防災性を確保するため、構造は埋蔵文化財調査センターと同じ鉄筋コンクリート造とします。

駐車場は、すでに整備されている中央武道館(ゼットエー武道場)第2駐車場を共用します。駐車場には普通車90台程度の駐車が可能で、博物館での利用は普通車40台、観光バス2台程度を想定しています。イベント開催時等、駐車スペースの不足が予想される場合は、近隣公共施設等の駐車場を利用することで対応します。

### (4) ライフサイクルコスト縮減への取組

平成元年竣工の既存建物については、計画的な改修や予防保全型の維持管理を行うことにより、長寿命化とライフサイクルコストの最小化・標準化を図ります。増築建物についても、目標使用年数を設定し、構造の耐久性だけでなく、設備の耐久性や汎用性、更新の容易性、省エネルギー性能、環境負荷性能等の維持管理費、定期的な修繕・改修費等、総合的なライフサイクルコストの軽減に配慮します。

## (5) 整備予定地の周辺環境

整備予定地は、市原市能満1489番地にあり、市原市中央武道館（ゼットエー武道場）と市原市ゲートボール場に隣接します。

### ① 全国屈指の歴史体感エリア

埋蔵文化財調査センター周辺には、全国的に見ても優れた歴史遺産が高密度に分布しています。これだけの輝きを放つ歴史遺産が揃う場所は、市内を見渡しても他にありません。施設とその周辺に点在する歴史遺産を一体的かつ有機的に活用することで、施設を含むエリア全体としての魅力が高まるとともに、発信力の高まりも期待できます。

埋蔵文化財調査センターと博物館を一体化する整備案は、この立地の優位性を活かし、一帯をフィールドミュージアムとして捉え、その中核に博物館を位置付けることが可能です。

### ② タイムトラベルの玄関口

博物館を中心とした一帯をフィールドミュージアムとして捉え、連携した展示や共通デザインの案内サイン等のしかけを用意して、市民や来訪者をフィールドワークへと誘います。博物館で得た知識や情報は、実際に現地に立ち、周囲の地形や環境、スケール感を体感することで、更に理解が深まります。特に上総国分尼寺跡では、建物の復元やガイダンス施設の整備が行われており、一体的な活用が有効です。

### ③ 周辺環境を活かした体験プログラム

埋蔵文化財調査センターには、周辺の歴史遺産に関する資料や情報が蓄積されています。これまで培ってきたノウハウを活かして、原始古代の生活体験や発掘体験を行うほか、周辺に残る自然環境等を活かして、民具を利用した農業体験等の通年型体験プログラムへ発展させます。

特に子どもや親子向けの体験プログラムを充実させることにより、「千葉こどもの国キッズダム」との連携と回遊を図ります。

全国屈指の歴史体感エリア



■周辺の主な歴史遺産

- 祇園原貝塚・・・東京湾東岸を代表する大型貝塚
- 神門5号墳 (県指定史跡)・・・東日本最古の古墳
- 稲荷台1号墳・・・「王賜」銘鉄剣 (国産最古の有銘鉄剣) が出土
- 上総国分僧・尼寺跡 (国指定史跡)・・・全国最大級の寺域と史跡整備
- 上総国府推定地・・・古代道が走り、国府関連の伝承が残る最有力地



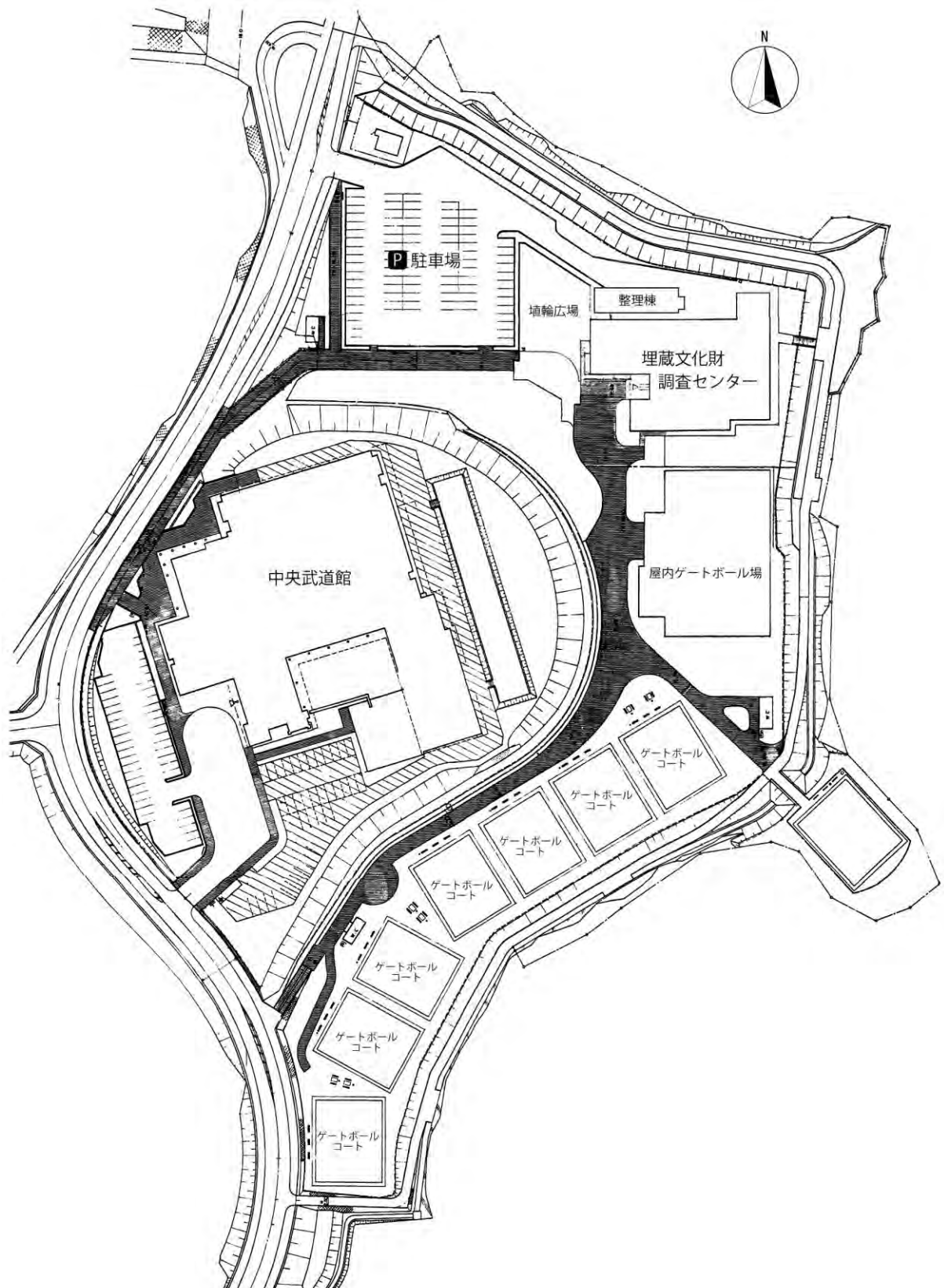
- ・ 歴史的周辺環境の優位性
- ・ 既存施設の有効活用
- ・ 施設と人材 (学芸員) の集約
- ・ 新たな用地確保が不要
- ・ 駐車場が備わる



A 上総国分尼寺跡 B 阿須波神社  
C 上総国分僧寺跡 D 光善寺  
E 埋蔵文化財調査センター



(6) 整備予定地周辺の既存施設配置図



### (7) 整備予定地の敷地条件

項目		内容
敷地条件	地番	千葉県市原市能満 1489
	接道状況	西側:幅員 9m(市道:その他)
	敷地状況	既存建物有、既存樹木有、平坦地
法規制等	用途地域	指定なし
	建ぺい率	60%
	容積率	100%
	防災地域	指定なし
	高度地区	指定なし
	日影規制	
	斜線規制	道路斜線:勾配 1.5 隣地斜線:勾配 1.25 立上:31m 北側斜線:該当なし
	駐車場整備地区	指定なし
その他	都市計画法	
	市街化調整区域	
	公共資産マネジメント推進計画	
計画概要	建物用途	博物館
	構造	鉄筋コンクリート造
	規模	地下:なし 地上:2階建
	敷地面積	約 4,000 m <sup>2</sup> (管理面積)
アクセス	バス① (中央武道館行き・2系統) 五井駅東口～埋蔵文化財センター 平日 10・休日 9 便 17 分 300 円 バス② (山倉こどもの国行き) 八幡宿駅西口～山田橋東(徒歩 8 分) 平日 5・休日 5 便 12 分 260 円 ※ 8 時～16 時台の運行数	
駐車場	約 90 台 (中央武道館と共用)	
周辺施設の入込数	16 万人 (埋文センター・尼寺展示館・中央武道館の合計)	
用地の種別	市有地	
建築計画	増築建物部分 構造計算に基づく強度の確保が可能 既存建物部分 建設後 28 年経過し、老朽化による調査が必要	
建築コスト	既存施設を活用するため、最小限のコストで必要な機能と規模が確保できる	
維持管理・運営コスト	施設と職員(学芸員)が集約されるため、最小限のコストで機能強化を図ることができる	

### (8) 交通アクセスへの対応

埋蔵文化財調査センターへは、五井駅から1時間に1便程度のバス路線が運行されていますが、より利便性を高めるため、来館者へのアンケート調査等を実施し、公共交通機関の利用状況を見極めながら、バス事業者への増便の要望について検討します。

周辺道路の整備も進みつつあることから、案内表示等を各所に設置するなど、道路利用者の利便性向上にも努めます。

## (9) 埋蔵文化財調査センターの概要

市原市は、「王賜」銘鉄剣や上総国分僧寺・尼寺跡に代表されるように、貴重な遺跡・遺物の宝庫として知られています。一方、京葉工業地帯の中核都市として開発も盛んであり、そのために壊される遺跡も少なくありません。そこで、これら市内の埋蔵文化財を調査研究し、保存管理するための拠点として平成2年に市原市埋蔵文化財調査センターを設置しました。

### ① 埋蔵文化財調査センターの業務

- ・埋蔵文化財の調査研究及び普及活動
- ・出土した文化財及び調査記録などの資料の整理、収蔵並びに保存管理

### ② 施設の概要

#### ■センター建物の面積

- ・建築面積 1,612.32 m<sup>2</sup>
- ・延床面積 2,557.18 m<sup>2</sup>  
(1階；1,571.02 m<sup>2</sup>、2階；970.49 m<sup>2</sup>、塔屋；15.67 m<sup>2</sup>)

#### ■主要な各室の内訳

##### 1階

- ・エントランスホール 134.62 m<sup>2</sup>
- ・事務室 59.43 m<sup>2</sup>
- ・会議室（旧応接室） 30.10 m<sup>2</sup>
- ・研究室 41.77 m<sup>2</sup>
- ・整理室 234.84 m<sup>2</sup>
- ・製図室 76.36 m<sup>2</sup>
- ・資料準備室 99.75 m<sup>2</sup>
- ・一般収蔵庫 491.10 m<sup>2</sup>
- ・特別収蔵庫（木器） 37.37 m<sup>2</sup>
- ・その他 365.68 m<sup>2</sup>

##### 2階

- ・フィルム保管庫 31.84 m<sup>2</sup>
- ・図面保管庫 50.20 m<sup>2</sup>
- ・書庫 78.51 m<sup>2</sup>
- ・一般収蔵庫 488.77 m<sup>2</sup>
- ・特別収蔵庫（鉄器） 31.98 m<sup>2</sup>
- ・会議室 95.30 m<sup>2</sup>
- ・その他 193.89 m<sup>2</sup>

(10) 埋蔵文化財調査センター既存平面図



既存本館 2階



既存本館 1階

0 20m

### (11) 敷地利用計画

埋蔵文化財調査センターの隣接地に新たに施設を整備するに当たっては、既存建物や園路、池などの周辺環境により、下の図のような敷地条件が想定されます。増築スペースとしては、埋蔵文化財調査センターの西側に隣接する「埴輪広場」を中心に考えるのが合理的です。



### 3 施設の諸室と内容

博物館に求められる機能と施設の内容は、概ね以下のとおりになります。

#### (1) 必要となる諸室と規模

機能	諸室	㎡	概要
(1) 収集保存機能	①一般収蔵庫	979.9	・劣化の影響が少ない資料を収蔵・保管する。
	②特別収蔵庫	139.3	・古文書や金属器等の資料を温湿度管理下で保管する。
	③一時保管庫	28.8	・貸借資料や展示器材等の一時保管を行う。
	④図面保管室	50.2	・調査図面等を保管する。
	⑤フィルム保管室	31.8	・撮影フィルム等を保管する。
	⑥荷解室	188.2	・収集資料、貸出・借用資料等の荷解きを行う。
	<b>収集保存機能合計</b>	<b>1,418.2</b>	
(2) 調査研究機能	①学芸員室	84.8	・調査研究や展示企画等、運営・活動関連業務を行う。
	②書庫	78.5	・様々な関連書籍・報告書等を収蔵・保管する。
	③撮影室	45.6	・資料の撮影を行う。
	④整理室	100.0	・発掘調査等による遺物整理を行う。
	⑤製図室	76.4	・遺構や遺物等の図面作成を行う。
<b>調査研究機能合計</b>	<b>385.3</b>		
(3) 協働調査研究・ 地域連携機能	①会議室	95.3	・各種会議等に利用する。
	②ボランティア室	50.0	・市民ボランティア等が活動・準備を行う。 多目的室の利用も想定。
<b>協働調査研究・地域連携機能合計</b>	<b>145.3</b>		
(4) 公開展示機能	①常設展示室	344.6	・市原市の歴史を資料や様々な演出によりわかりやすく紹介する。資料の展示・保存環境に配慮した空間とする。
	②企画展示室	123.5	・様々なテーマの企画により展示を行う。他館からの借用資料の利用等に配慮したフレキシブルな空間とする。
	③展示準備室	30.0	・展示準備のための利用、
	④展示機材倉庫	20.0	・展示器材等を保管する。
<b>公開展示機能合計</b>	<b>518.1</b>		

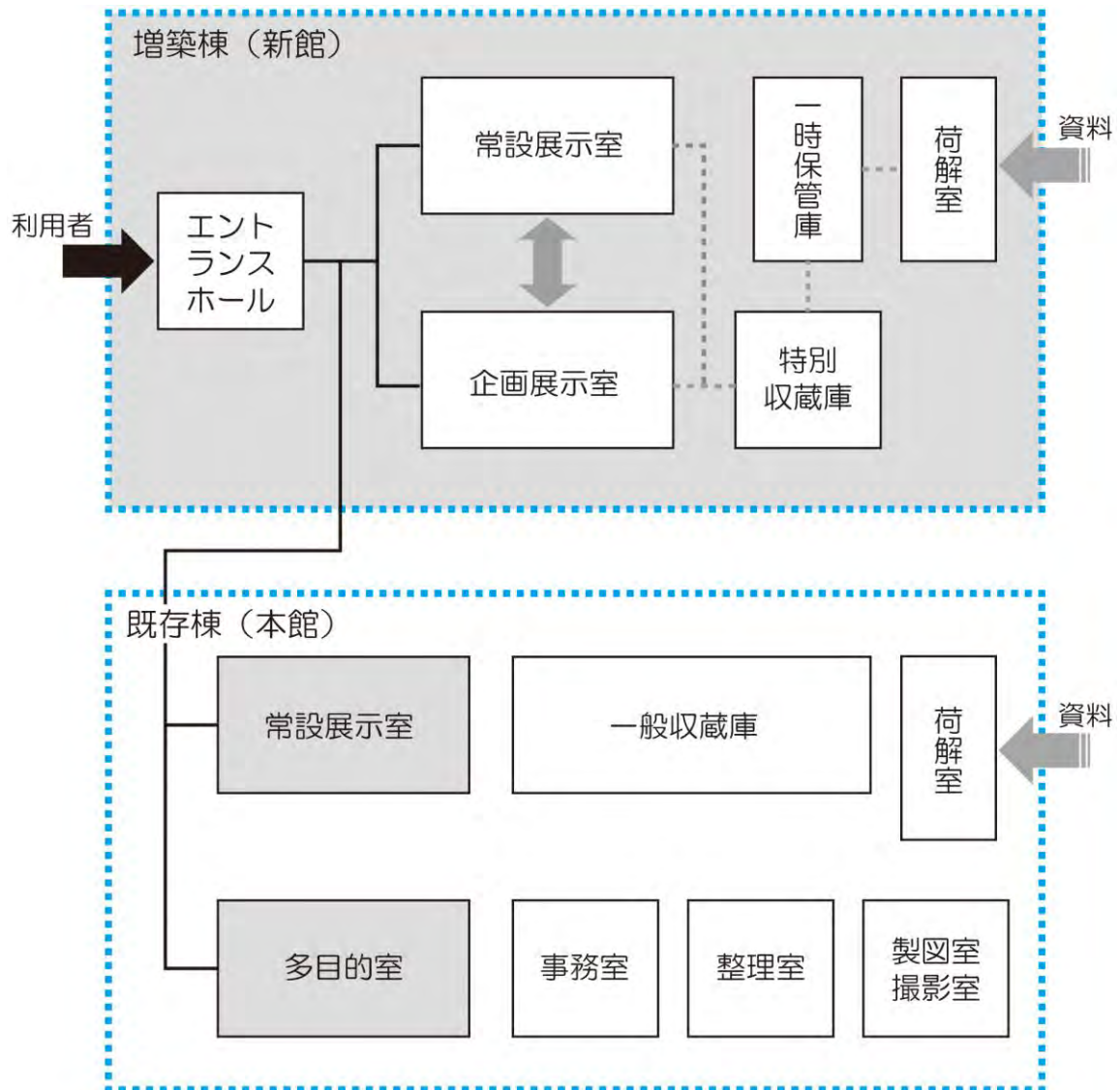
(5) 教育普及・ 学習支援機能	①多目的室	194.0	・研修や講座、体験・郷土学習等、様々な生涯学習活動を行う。 定員 100 名程度を想定。
	<b>教育普及・学習支援機能合計</b>		<b>194.0</b>
(6) 情報提供機能	①図書室	20.0	・郷土の歴史遺産に関連する図書を収蔵・閲覧する。
	②情報閲覧コーナー	30.0	・収蔵品や市内の歴史遺産、観光案内等の情報を検索する。 エントランス内の設置を想定。
	③案内カウンター	20.0	・施設案内や展示案内の窓口となる。 エントランス内の設置を想定。
	<b>情報提供機能合計</b>		<b>70.0</b>
(7) 管理機能	①事務室	59.4	・事務作業を行う。
	②更衣室	26.0	・職員用更衣室。
<b>管理機能合計</b>		<b>85.4</b>	
(8) ホスピタリティ 機能	①休憩スペース	30.0	・エントランス内の設置を想定。
	②多機能トイレ	99.3	
	③ショップ	20.0	・オリジナルグッズ等の販売を行う。 エントランス内の設置を想定。
	④エントランス	127.8	
<b>ホスピタリティ機能合計</b>		<b>277.1</b>	
(9) その他	①その他	356.0	・エレベーター、機械室等。
	<b>その他の機能合計</b>		<b>356.0</b>
<b>合計（延床面積）</b>		<b>3,449.4</b>	既存施設部分を含む概算。

- ※ ・グレー部分は増築又は改修により整備予定の諸室。  
 ・諸室面積は、設計時に詳細を検討した上で決定する。  
 ・博物館内での実施が難しい体験・郷土学習活動については、屋内ゲートボール場の活用を検討する。

## (2) 施設機能の構成イメージ

博物館としての機能を充実させるため、既存棟と増築棟の諸室の配分を踏まえて、以下のように構成します。

整備に当たっては、特に利用者動線と資料動線の明確化が求められます。

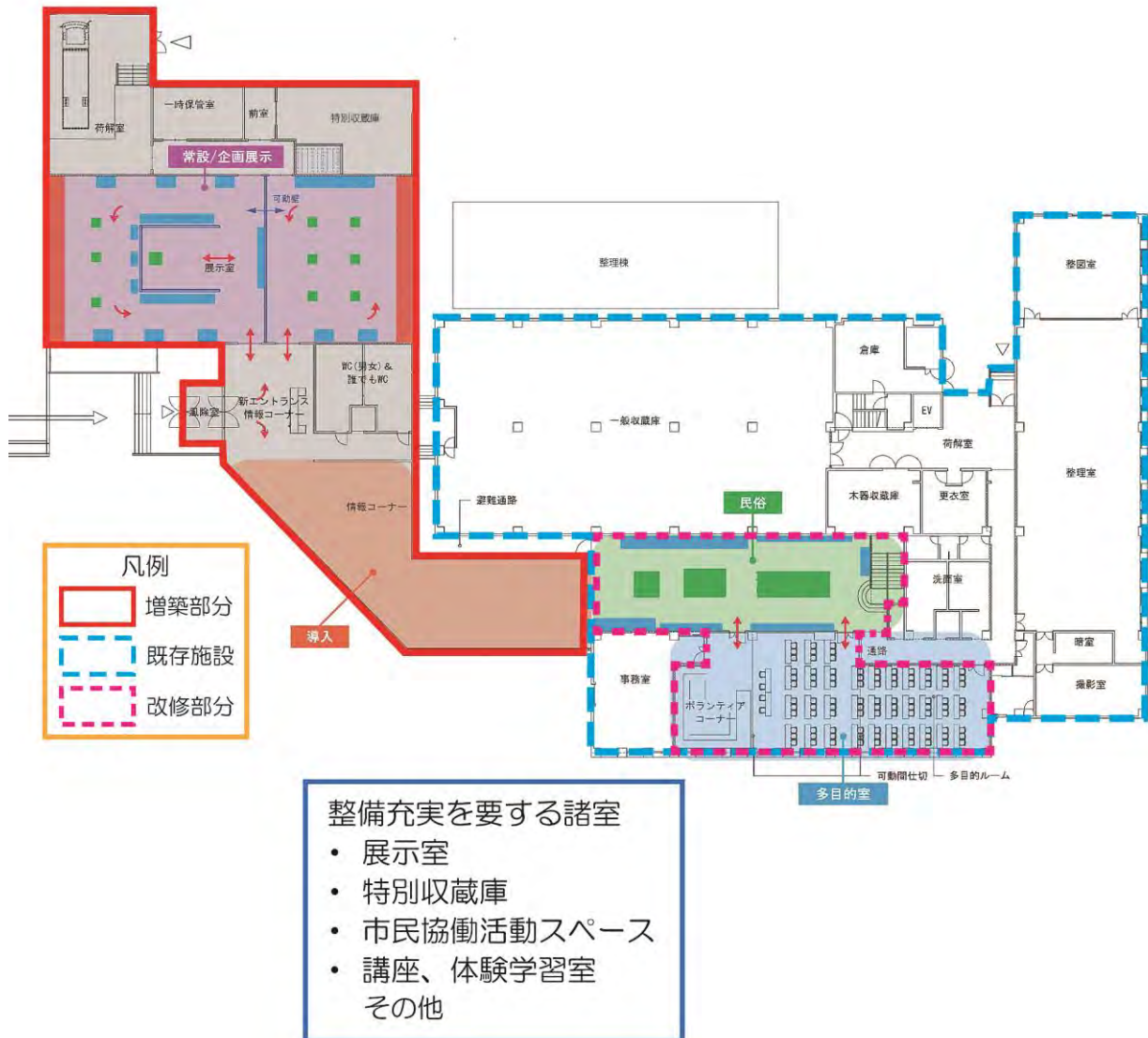




## 4 施設整備イメージ

展示室は、常設展示室と企画展示室を並列させることで、利用者を各室にスムーズに誘導させることが可能になります。また、増築棟と既存棟をつなぐ「新エントランスホール」は、導入展示や情報コーナー、ミュージアムショップ、休憩スペースとして利用します。

既存施設部分は、現エントランスホールを常設展示室として改修するほか、市民等の活動拠点として利用できるスペース（多目的室）を確保します。



## 5 公開承認施設への対応

国指定重要文化財の公開・展示・収蔵ができるよう、文化庁が定めた「文化財公開施設の計画に関する指針」（平成7年文化庁文化財保護部）に沿った施設整備を行います。

### （1）建物計画について

- ① 建物は耐火・耐震構造とするほか、大雨や浸水等への対策を施します。
- ② 収蔵庫・展示室は外部の環境からの影響を受けにくい設計とし、極力外壁に面さないように配慮します。
- ③ 資料への影響を極力抑え、気密性・断熱性を確保するため、二重壁・二重床等とすることを検討します。
- ④ 搬出入時の外気の影響を避けるため、トラックヤードを建物内に取り入れます。
- ⑤ 借用資料を公開環境に慣らすための一時保管庫を設置します。

### （2）設備計画について

- ① 空調設備
  - ア 四季を通じて温度と相対湿度を調整できるものを採用します。
  - イ 室内環境を保つため、空調系統は展示室と収蔵庫とに分離します。
  - ウ 収蔵庫の空調は、庫内だけでなく、二重壁内の空気層にも行うように配慮します。
- ② 照明設備
  - ア 文化財が置かれる空間には、LEDや紫外線カット機能を備えた光源を採用します。
  - イ 温度上昇を避けるとともに、文化財の材質に合わせた調光可能な設備を採用します。
- ③ 防火防犯設備
  - ア 展示区画、保存区画、管理区画を明確に分離し、資料の動線と来館者の動線が重ならないようにします。
  - イ 資料の安全とともに、来館者の安全に配慮した設備を採用します。
  - ウ 消火設備は誤作動のリスクも含め、できるだけ文化財への影響の少ないものを採用します。
  - エ 耐火・防犯性の高い収蔵庫扉（金庫扉）を適切に配置します。

## IV 展示計画



# 1 基本方針

全体テーマ

## 「上総、そして市原へ ー昔と今をつなぐ旅ー」

展示では資料や情報を提示するだけでなく、その背後にある「人々の知恵や想い」を伝えていきます。市民や来訪者が、国府・国分寺が置かれ、上総国<sup>かずきのくに</sup>の中心地として栄えた「いちはら」の成り立ちや歩みを知り、身近な地域の歴史遺産への興味や関心に結び付けることができるよう、テーマやストーリーに沿って、わかりやすく伝える展示を行います。

① 展示は「いちはら」の歴史を特徴付け、市民はじめ誰もがわかりやすく理解できるようにし、展示を通して地域への関心・興味を引き起こし愛着につながるようにします。

展示で扱うテーマはいちはらの歴史を特徴付けるテーマを設定するとともに、誰もが興味を持って楽しめわかりやすい手法を導入し、フィールドと連携した展示を行います。

② 展示は常設展示の基本テーマをもとにしながら、繰り返し訪れてもらえるよう、柔軟な展示替えが可能なものとします。

企画展はもとより常設展示についても、新たな研究成果や資料の追加等に対応できるよう、変更可能な新たな展示手法を検討します。これらにより常に魅力を発信する施設とします。

③ 市民の協働・参画による活動・交流の成果をもとに、これらを反映した展示を行います。

ミュージアム全体の活動は市民の参画のもとで行うことから、展示においても、調査研究・展示の立案・案内等市民が参画した新たな展示を積極的に行います。

④ 展示では地域の歴史を軸に多様なテーマを設定し、所蔵する実物資料をはじめ、借用する重要文化財の展示も行えるようにします。

特に企画展示では多様なテーマを設定し、他館からの貴重な資料の借用も考慮し、展示環境に配慮した空間構成とします。

## 2 「いちはら」の成り立ち

房総半島の中ほどに位置する市原市は、東京湾の豊かな海、市内を南北に貫く養老川がもたらした肥沃な平野と緑豊かな山間部からなる、恵まれた自然環境の中にあります。こうした自然環境との共生のもとに多様な伝統文化が息づき、全国的に見ても優れた歴史遺産を現代に伝えています。

市内には国指定5件、県指定24件、市指定54件、国登録23件と合計106件にもものぼる指定・登録文化財がある歴史の宝庫です。

### ① 「いちはら」の原始

「いちはら」の歴史は、今から3万年もさかのぼった旧石器時代にはじまります。縄文時代になると数多くの貝塚が形成され、西広貝塚や祇園原貝塚は東京湾東岸地域を代表する大型貝塚として、全国的に知られています。

弥生時代にはムラの周囲に濠をめぐらす「環濠集落」が多くつくられ、邪馬台国時代とも呼ばれる弥生時代の終わりころになると、遠方各地から人々が集まる拠点地となり、東日本最古の古墳として全国的に知られる神門古墳群がつくられました。

古墳時代に入ると、姉崎天神山古墳や今富塚山古墳など全長100m級の前方後円墳が次々とつくられ、東日本の中核的な地域として繁栄しました。村田川、養老川流域の有力豪族は、大和政権から国造に任命され、それぞれ「くくまのくに」「かみつうなかみのくに」と呼ばれるまとまりができました。古墳時代の出土遺物のなかでも、国産最古の有銘鉄剣である「王賜」銘鉄剣は重要文化財級の逸品で、「いちはらの至宝」と言っても過言ではありません。

### ② 「いちはら」の古代

律令制の施行に伴い、房総の地は上総国、下総国、安房国に分けられ、国の下には郡が置かれました。「いちはら」は市原郡と海上郡にまたがり、上総国の行政の中心となる国府が市原郡に置かれました。奈良時代の中ごろには、全国有数の規模を誇る上総国分寺・尼寺が建立され、都と同じ最先端の文様を施した屋根瓦が葺かれました。国府の所在地は依然謎に包まれているようですが、平安女流文学の代表作である更級日記の冒頭には、作者の上総国司菅原孝標の娘が「いちはら」で過ごした少女時代や京の都へ出立する様子が記されています。

### ③ 「いちはら」の中世

中世に入ると、鎌倉幕府や足利氏の庇護のもと、飯香岡八幡宮や西願寺阿弥

陀堂、鳳来寺<sup>ほうらいじ</sup>観音堂などの貴重な建造物や多数の仏像がつくられました。室町幕府の力が次第に衰えて戦国時代になると、「いちはら」の地は武田氏・里見氏・北条氏が勢力を争う戦乱の舞台となり、<sup>しいづしよう</sup>椎津城をはじめとする中世城郭が、市内各地につくられました。

#### ④ 「いちはら」の近世

江戸時代には、幕府の御膝元という地理的な条件から、幕府の直轄地や旗本・大名の知行地として細かく分割され、支配を受けました。江戸湾の海上交通が発達すると、年貢米や薪炭などの物資が<sup>ごだりきせん</sup>五大力船によって運ばれ、房総往還などの街道の整備も進むと、祭囃子など多くの文化が江戸から伝えられました。また、出羽三山信仰や富士信仰もこの頃からはじまり、現在も市内各所で継承されています。

#### ⑤ 「いちはら」の近現代

明治維新をむかえ、もともと市内にあった鶴牧藩に加え、浜松、沼津から大名が移され、それぞれ鶴舞藩、菊間藩が置かれました。これらの藩も明治4年の廃藩置県によって消滅し、同6年には千葉県に統合されました。また、「明治の町村合併」により、明治22年には市原郡内が21町村にまとめられました。

その後は町村の統廃合を繰り返しましたが、昭和38年に北部の市原・五井・姉崎・市津・三和の5町が合併して市原市が誕生しました。さらに昭和42年には南部の南総町・加茂村を加え、市原郡全域を1市とする広域都市となり現在に至っています。

かつて農漁村だった「いちはら」の地は、臨海部の埋め立てによって建設された京葉工業地帯の中核として日本の経済成長の一翼を担ってきました。

工場の立地に伴い、昭和40年代後半にかけて、辰巳台・有秋台・若宮・青葉台などのニュータウンが急速に発展し、人口の増加や公害などに対応するための都市基盤も整備されました。

### 3 展示の構成

展示は、「常設展示」と「企画展示」を基本に構成するほか、市内各地に点在する歴史遺産を紹介する「フィールドガイダンス展示」や、各地域で行われた調査成果を持ち寄って発表する「市民参画型展示」も行います。また、子どもたちを中心に、いつでも歴史体験ができる参加・体験型の「歴史体験展示」を行い、体験学習事業とリンクさせます。

これらを通して、博物館の事業活動と一体となった新しい展示を行います。

#### (1) 常設展示

##### 「いちはらの歴史の特徴を掘り下げ、新たな発見に出会う展示」

博物館の顔となる常設展示では、いちはらの至宝とも言える「王賜」銘鉄剣の展示を行うほか、「いちはら」を特徴付ける様々なテーマで構成します。

常設展示は6つのテーマ構成を基本としますが、テーマや展示資料の更新、企画展示との組合せに対応できるよう、フレキシブルな手法を取り入れます。また、収集資料管理システムの付加機能である、スマートフォン・タブレット端末用音声ガイド配信機能により、利用者サービスの充実を図ります。

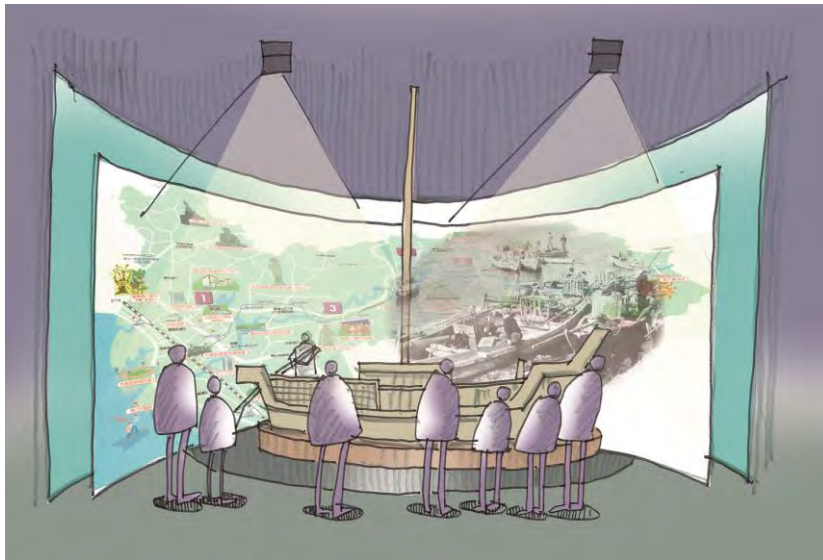
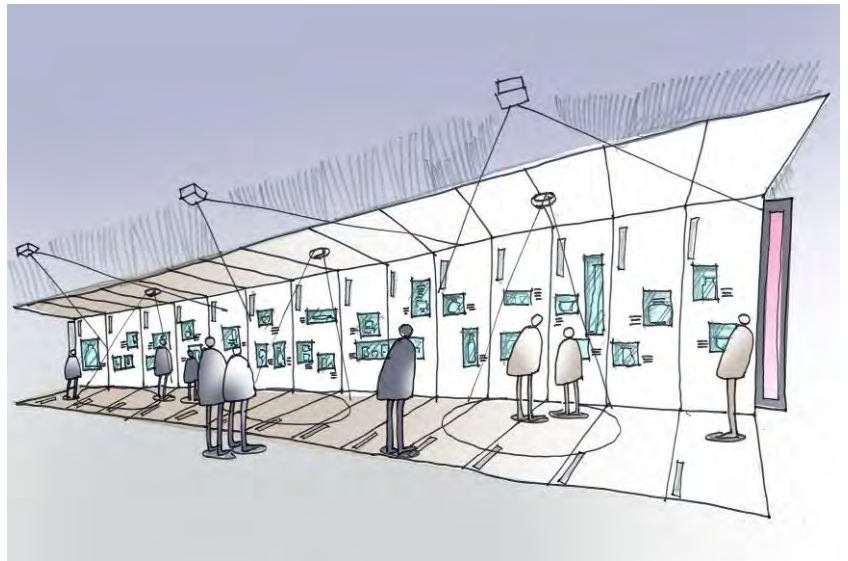


■通史展示イメージ(演出中心)  
博物館の導入部で「いちはら」の歴史を概観する展示を行う。映像・情報・模型等を活用し、その流れと特色をつかみ、展示室へと誘導する。



■通史展示イメージ（資料中心）

主に「いちはら」のビジュアル年表と実物資料を中心に構成し、歴史の流れをつかんでもらう。各時代の詳細内容については展示室と連携して構成する。

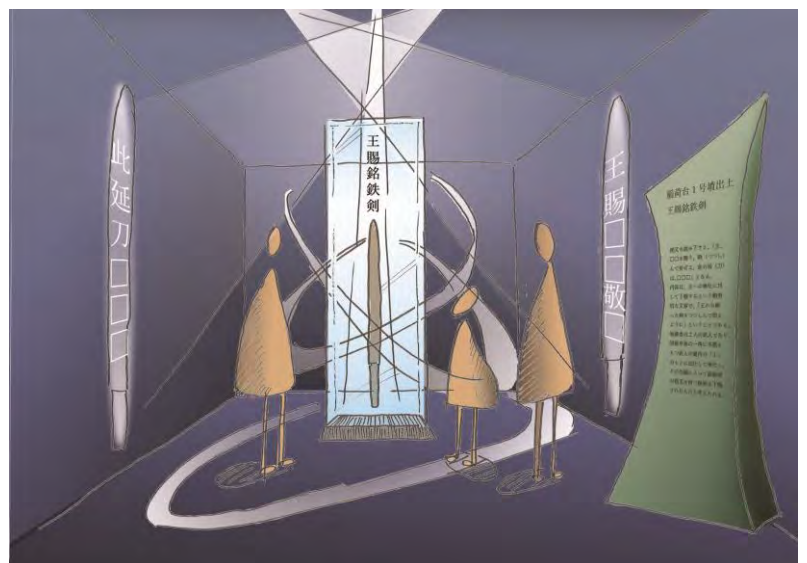


■導入部でのオリエンテーション展示イメージ

「いちはら」を象徴する資料と演出を組合せ、印象的に概要を紹介する。

■展示室内での象徴展示イメージ

貴重な資料を周囲から見学できるように、展示環境にも配慮しながら展示する。



## (2) 企画展示

### 「多様なテーマや構成に対応したフレキシブルな展示」

収蔵資料に関する最新の調査研究成果や学校等の学習計画と連動したテーマによる企画展を年2回程度行うほか、重要文化財を含む関連資料を市内外から借用し、いちはらの歴史遺産を多角的な視点で紹介する特別企画展を年1回程度行います。また、市内各地域で行われた調査研究成果を持ち寄る市民主催の企画展や、共通テーマに基づく他館との連携による企画展を随時行います。

企画展示はテーマや資料構成が様々であることから、展示資料の入替えや展示スペースの変更に対応できるよう、フレキシブルな手法を取り入れます。

#### ● 企画展示の種類

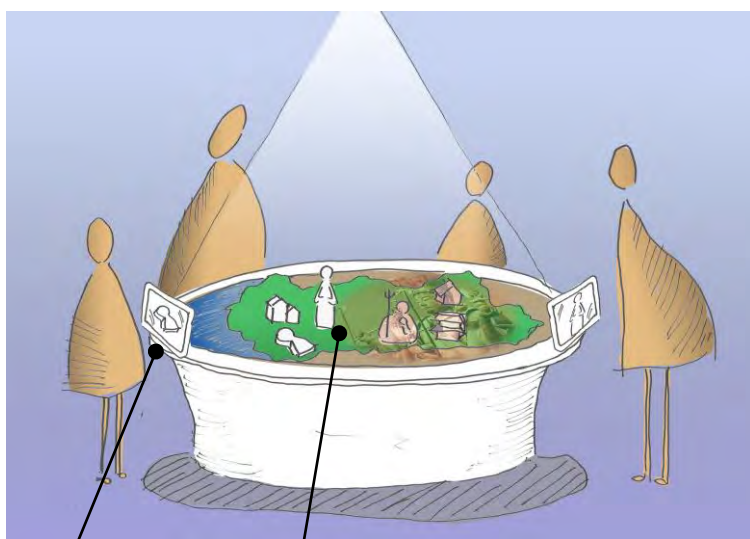
①通常企画展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設展示と連動し、テーマを掘り下げた展示を展開する</li> <li>&lt;テーマ例&gt;</li> <li>・ 臨海過去未来</li> <li>・ 上海上の王陵</li> <li>・ 伝説に生きる将門</li> <li>・ いざ鎌倉</li> <li>・ 戦国乱世と里見氏</li> <li>・ 古街道を往く</li> <li>・ 彫工 波の伊八</li> <li>・ 養老川と地磁気逆転期地層</li> </ul>	年2回程度
②特別企画展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館独自のテーマを設定し、特別展示として開催する</li> <li>・ 夏休み企画展示等の開催</li> </ul>	年1回程度
③巡回展示・連携展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内外の他館等と連携した展示を開催する。</li> </ul>	随時開催
④市民参画型展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民活動の場として企画・調査・設営等を含めその成果を発表する。</li> </ul>	随時開催

### (3) フィールドガイダンス展示

#### 「フィールドへいざなうための展示」

##### ① 基本的な考え方

市内各地に点在する歴史遺産は、フィールドミュージアムを構成する屋外展示（フィールド展示）と捉えます。フィールドガイダンス展示で現地の情報や見学ルートなどを魅力的に紹介して興味につなげ、実際に現地を訪れ、歴史遺産をじかに体感するきっかけをつくります。



タッチモニター

周辺フィールド模型

##### ■フィールドガイダンス展示イメージ

- 施設の導入部にて周辺のフィールド案内やルート情報を入手。
- アプリを入手し、屋外でより深い情報を入手することも可能。

##### ■情報コーナーイメージ

- 収蔵資料や市内の歴史遺産情報のデータベースを整備、関連する書籍も閲覧可能



② 博物館とフィールドとの連携の展開

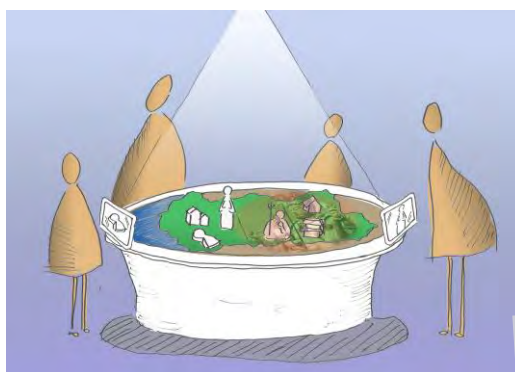
フィールドへの指針となる展示

博物館とフィールドを一体的に利用でき、子どもから大人まで楽しみながらフィールドへ出るきっかけづくりとなるしかけを用意します。

また、各歴史遺産では統一された案内サインやアプリ等の最新の技術を活用し、現地見学の道しるべとなるようにするとともに、博物館とフィールドが一体となったイメージを構築するため「V I計画」の導入を検討します。

\* VI (Visual Identity) ; 共通のデザインによるシンボルマークやロゴ等の導入により視覚的に統一感を持たせる計画

- ① 館内のフィールドガイダンス展示で基本情報を入手、ルートや現地の案内を行う。

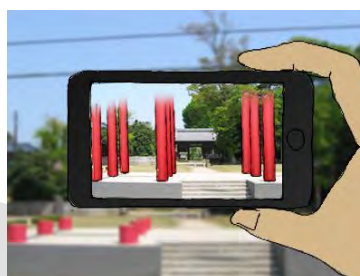


フィールドへ

- ② 現地で出土した資料や建物・史跡等の詳細情報を入手可能。



- ③ 屋外でのVRの活用、遺構にかざすと復元された建物がみえる



- ④ デザイン性を持った案内サイン、QRコードでルート案内や詳細情報を入手

### ③ いちはら歴史の道フィールド展開イメージ

#### アプリを持って歴史フィールドへ行こう

博物館は歴史遺産が広がる周辺地域をはじめ市全域のフィールドの拠点として、積極的に屋外と連携した展示を行々とともに、情報を提供していきます。

##### 〈子ども向け〉

RPG ゲームのように市原のまちを歩き回り、旅をする感覚で歴史遺産をめぐる。

現地へ着くとイベントが発生し、上手くこなすとアイテムを手に入れられる。その際、解説を表示することでアイテムやその場所の歴史を知る。仮想と現実を行き来し、楽しみながらまちの歴史を知ることができる。



↓ スポットでかざす



↓ イベントが登場

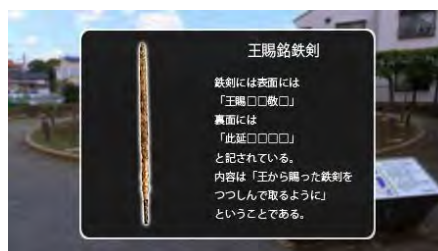


クイズが出題

館内でRPG式のアプリを入手、ゲーム感覚で現地を見てもらう

##### 〈大人向け〉

アプリを入手し、現地へ行き、各地の詳細情報を入手する。

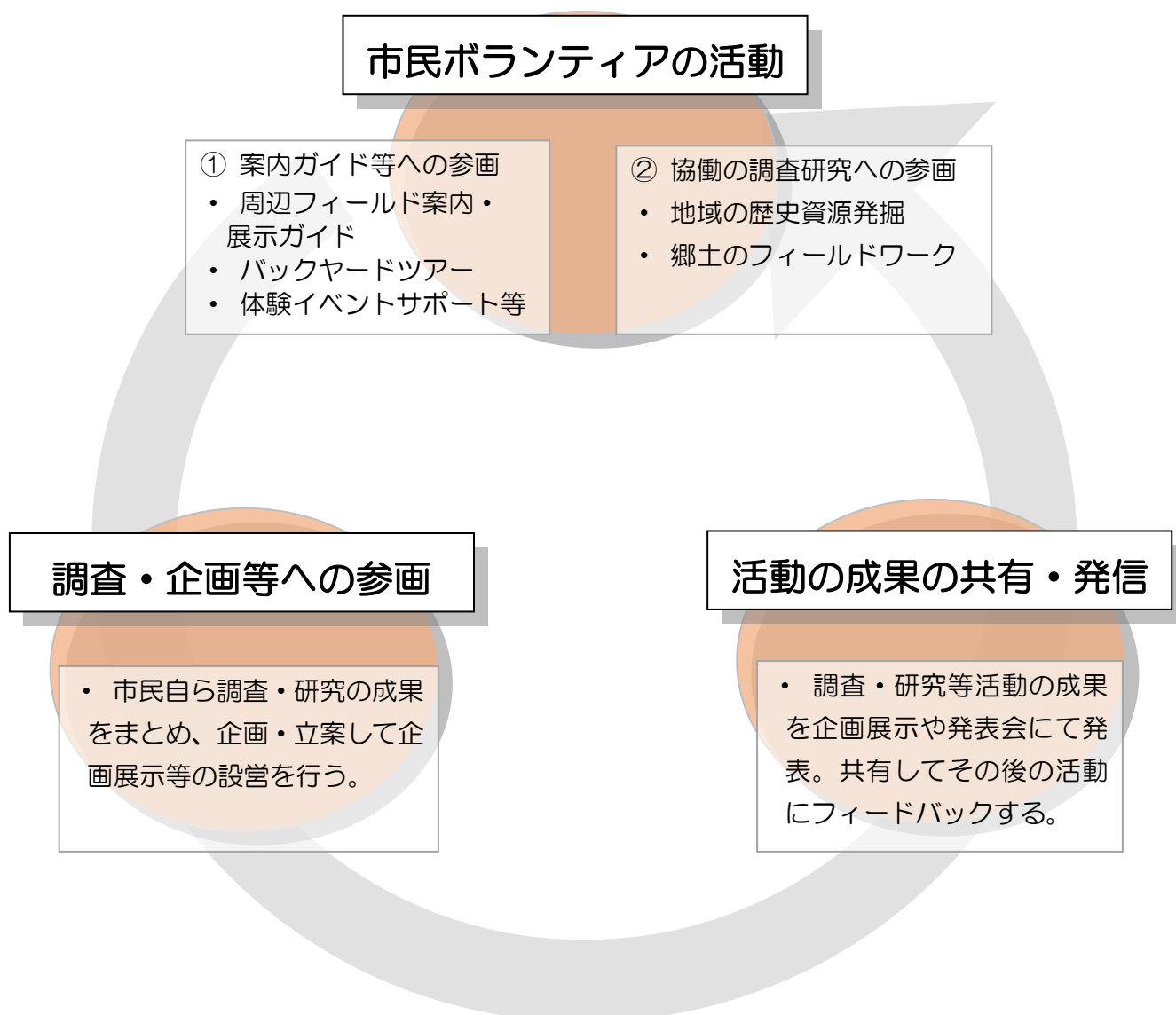


詳細情報を入手

## (4) 市民参画型展示

### 「市民が協働・参画・連携して発信する展示」

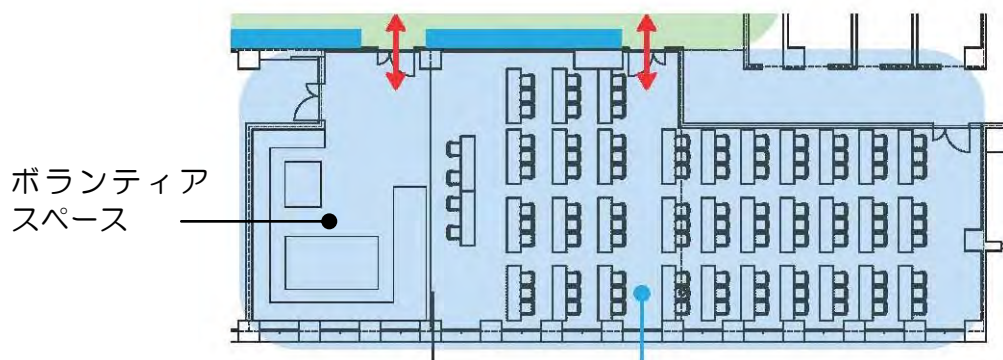
博物館では、様々な場面で市民が積極的に参画し、連携して活動していくことを想定しています。案内ガイドをはじめ、特に協働での調査研究への参画により、市民の地域の歴史・文化への関心・理解を深めるとともに、その成果を発信・共有し蓄積することで、博物館の活動の輪を更に広げていきます。



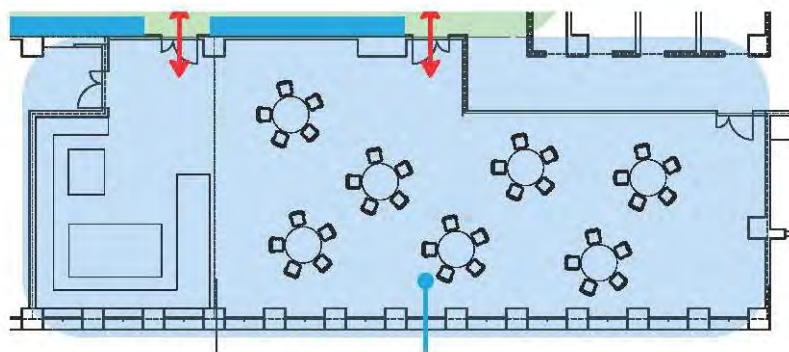
### ■多目的室を活用した市民参画による活動

多目的室についてもボランティアスペースを中心に、講座・講演会やワークショップ、また市民による展示や民俗資料等を活用した暮らしの展示等、多様な利用が可能なスペースとして検討します。

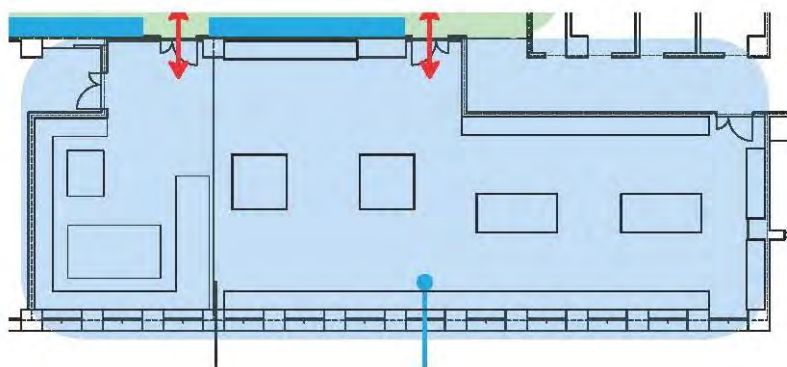
- ① 講座・講演会等の利用時の展開、100人程度の規模を想定する



- ② ワークショップ・体験活動時の展開



- ③ 暮らしの展示スペースとして活用



## (5) 歴史体験展示

### 「体験プログラムを交え、歴史を体感するための展示」

博物館では設置できない大型資料の展示や展示を補完する体験プログラム等を行うことで、歴史を身近に感じることができるよう工夫します。活動に当たっては、市民ボランティアとの連携を軸にプログラムの検討を行います。

竪穴住居の復元や発掘調査現場を再現し、埋蔵文化財調査センターが培ってきたノウハウを活用して、原始古代の生活体験や発掘体験を行います。

納屋風の建物を再現し、民俗資料の一部を収蔵展示するとともに、季節に応じた少し昔の暮らし体験の教材として活用します。地域の高齢者等の参画を促し、実体験に基づく解説やエピソードを交えるなど、世代間の交流も図ります。

地域で伝わる知恵や技術を知りえる高齢者は、文化を継承するために重要な存在です。このことから、高齢者が生きがいをもって活躍できる場として、知の社会還元の間として、様々な世代とのふれあいの場として、体験展示をはじめとする博物館活動への参画を図っていきます。

歴史体験展示に当たっては、各種体験プログラムの実施空間として、隣接する全天候型の屋内ゲートボール場の活用を検討します。

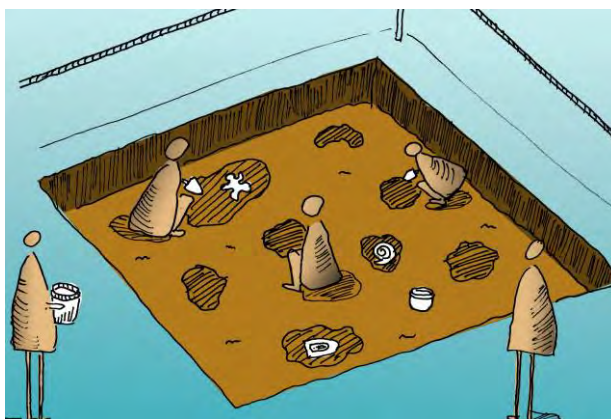
#### <体験プログラム例>

① 考古学体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬発掘体験：遺跡を模した発掘現場を再現し、その中で遺構の発掘の方法や遺物の発見等の体験を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘現場の模式再現</li> </ul>
② 考古学生活体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>石器・土器等道具作り。</li> <li>竪穴住居作り：市民ボランティアとともに、竪穴住居の復元を行う。</li> <li>竪穴住居でのキャンプ：竪穴住居内で夏休み期間中等を利用し、キャンプを行い、縄文時代の暮らしにふれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具作りの材料</li> <li>竪穴住居作りの材料</li> </ul>
③ 少し昔の暮らし体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>少し昔の暮らし体験：民家の軒先をイメージ再現し、ボランティアによる、昔の遊び体験や昔話を行う。</li> <li>かつての農作業の様子を体験。農機具の実演や道具作りをはじめ、年間を通したプログラムにより農作業の1年を体験することも検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農機具</li> </ul>



## ① 考古学体験

発掘調査現場を模式的に再現。  
発掘調査の方法や遺跡の現場について体験する。



## ② 考古学生活体験

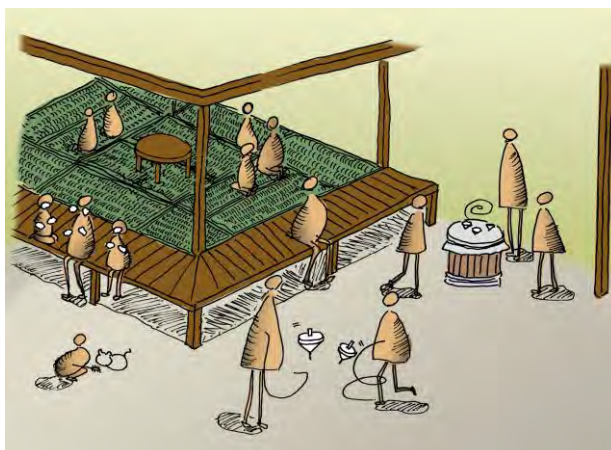
竪穴住居づくりや道具づくり等の体験を通して、博物館の展示をより深く理解することが可能。



## ③ 少し昔の暮らし体験

ボランティアとともに、市内のかつての民家等を模式的に再現。

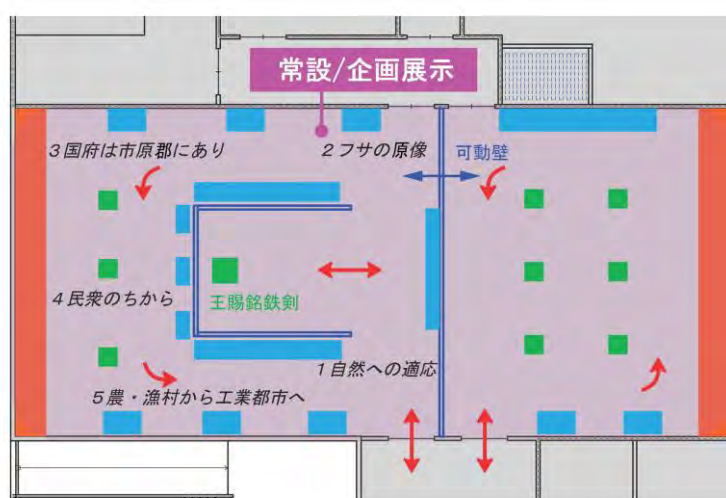
農機具等の大型民俗資料も展示し、昔の農作業や生活・遊び等をボランティアの案内で体験する。



## 4 可変型展示手法の採用

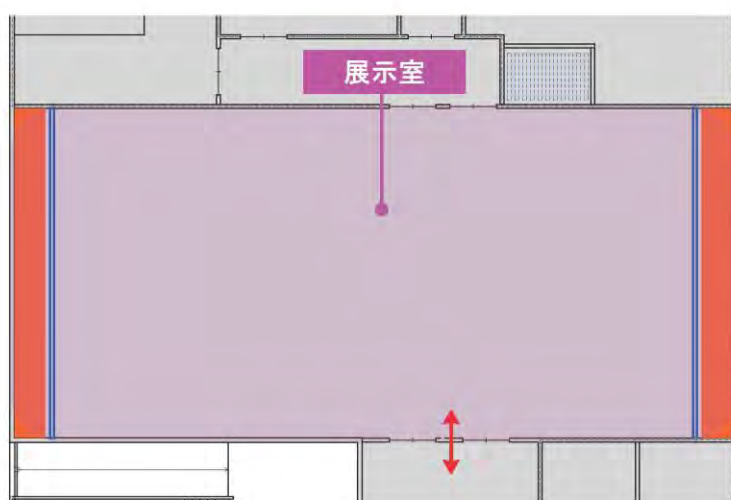
市民に繰り返し利用してもらい、訪れるたびに新たな情報や発見を提供できるよう、可動間仕切りを設定し、可変型の空間構成による展示手法を取り入れます。常設展示と企画展示で構成される展示室は、テーマや資料に応じてフレキシブルに空間構成を配置することが可能となります。

### (1) 可変型展示の展開イメージ



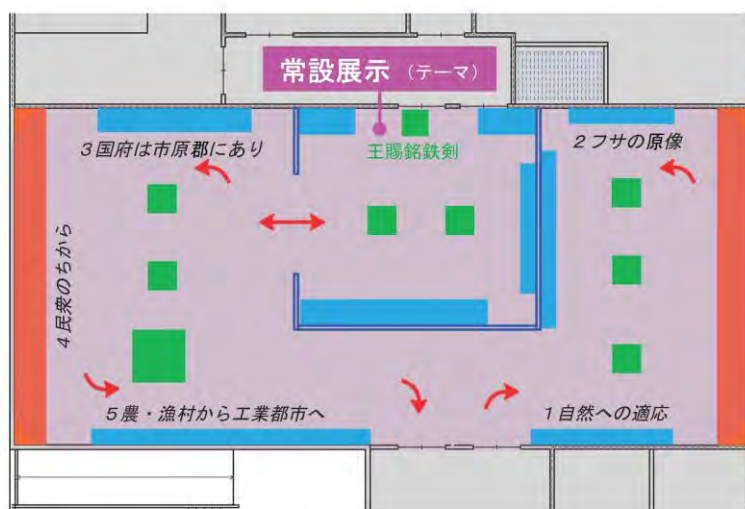
#### A-1 基本プラン

常設展示室と企画展示室間に可動間仕切りを設定。展示室内にも可動間仕切りを設定することでレイアウト変更可能。



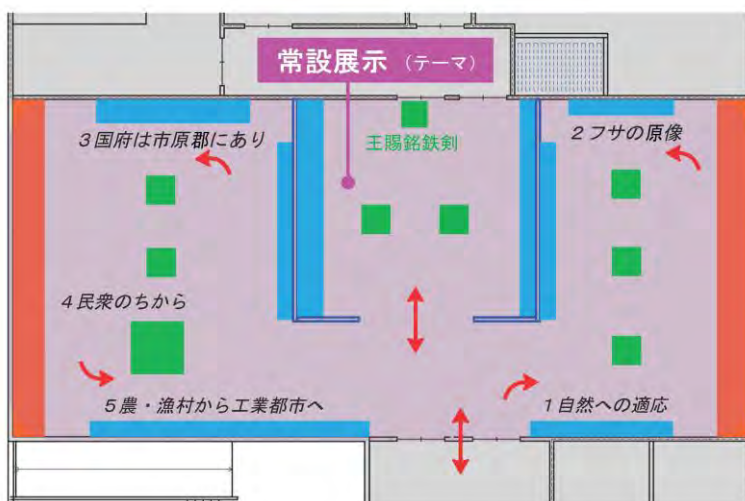
#### A-2

展示室全体を企画展示等に1室として使用。ウォールケース前面に壁面を設けることで様々な用途に利用可能。



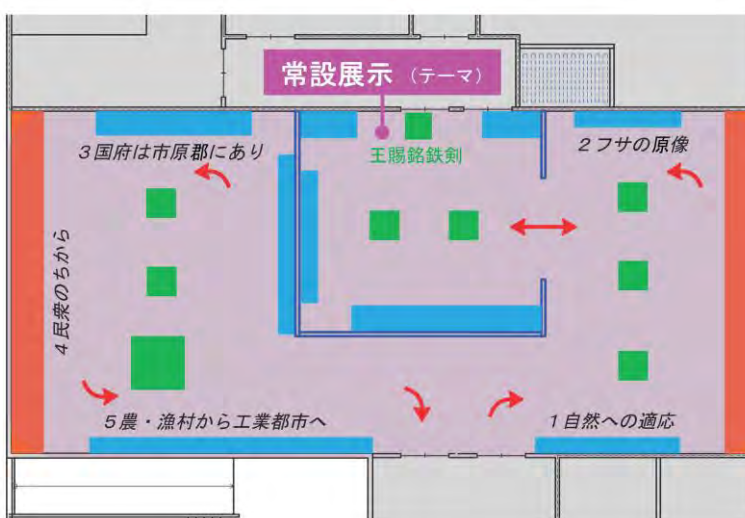
### B-1 基本プラン

常設展示室内に企画展示スペースを設定。シンボル空間とすることも可能。



### B-2

企画展示単独で行う場合は直接アクセスさせることも可能。



### B-3

常設展示のテーマを掘り下げた展示を行う場合は、そのテーマを扱う時代の周辺に入り口を設置。

## 5 展示のテーマ構成

### (1) 常設展示テーマ

常設展示は、下記の基本テーマのもと、定期的に展示替えを行いながら、常に更新性のある展示を行います。

テーマ	項目
1 自然環境への適応	(1) 最終氷期のハンターたち (2) 縄文の海の幸、山の幸 (3) 縄文人の祈り
2 フサの原像	(1) 弥生人の横顔 (2) 古墳出現前夜の移住者たち (3) いちはらの王陵
3 国府は市原郡にあり	(1) 造塔の寺は国の華 (2) 武士の台頭と動乱の時代 (3) ひろがる仏教世界
4 民衆のちから	(1) 村の誕生と生活 (2) 江戸との交流 (3) いまに息づく信仰
5 農・漁村から工業都市へ	(1) 近代の足音とまちづくり (2) 戦争の記憶 (3) 市原市の誕生、そしてこれから
6 暮らしの姿と生活道具	(1) ハマの生活と塩づくり・海苔づくり (2) オカの生活と生産用具 (3) 職人の手わざと用具

## (2) 展示テーマの主なねらい

### 1 自然環境への適応

「いちはら」は東京湾を特徴づける「貝塚文化圏」に位置します。豊富な山海の幸によって、人々は通年での定住生活を送るようになり、人や物が集まる拠点集落へと発展していきました。

西広貝塚<sup>さいひろ</sup>などから出土した豊富な資料を中心に、自然に対する畏敬の念を持ち、精神文化を深めていった様子を取り上げます。

### 2 フサの原像

奈良時代以降に上総国<sup>かづさのくに</sup>の中核エリアへと発展する「いちはら」。

2000年以上前から始まる弥生時代の農耕文化と金属利用は、統率者を権力者へと変えていきます。河川流域ごとの大規模古墳群の出現に焦点を合わせることで、「上総（カミツフサ）」の輪郭が、古墳時代を通して整っていくプロセスを取り上げます。

### 3 国府は市原郡にあり

平安時代の辞書『和名類聚抄』<sup>わみょうるいじゅうしょう</sup>には、上総国府は市原郡にあると記されています。今に伝わる平安時代の仏像や中世の建築は、武士が台頭する中世に至っても、「いちはら」が房総の政治的中心地だったことを示しています。

上総国分寺などの豊富な遺跡・遺物に文献資料を重ね、律令制の拠点から中世の政治的中心へと発展していく「いちはら」の姿を取り上げます。

### 4 民衆のちから

長い動乱の時代を生き抜き成長した民衆は、領主から自治権を勝ち取り、「村」が成立します。江戸幕府による幕藩体制は、このような村落自治を前提として新たに編成された統治システムでした。

「いちはら」の「村」の成立について解説しつつ、生産や流通、信仰など、多様な資料から、現代に連なる民衆の生活のあり方を取り上げます。

### 5 農・漁村から工業都市へ

臨海部の埋立てと企業進出は、「いちはら」の歩みにとって、一大転換期となりました。

大都市東京に近い地域特性を示す文献・民俗資料などにスポットを当て、近代以降の「いちはら」の発展について紹介します。単に懐古的イメージで終わらせず、「市原らしさ」の再発見と今後の発展に繋がります。




## 6 暮らしの姿と生活道具

近代化を果たした市原市では、社会インフラが整備され便利な生活が可能となりましたが、現代の生活の根幹には、これまでの農業や林業、漁業などの地場産業を営んだ、知恵や技がありました。


市に寄贈された民俗資料を中心に、ハマとオカの生活の様子や農具などの生産用具を解説しつつ、産業を支えた職人の手わざの姿を取り上げます。

## (3) 展示の概要

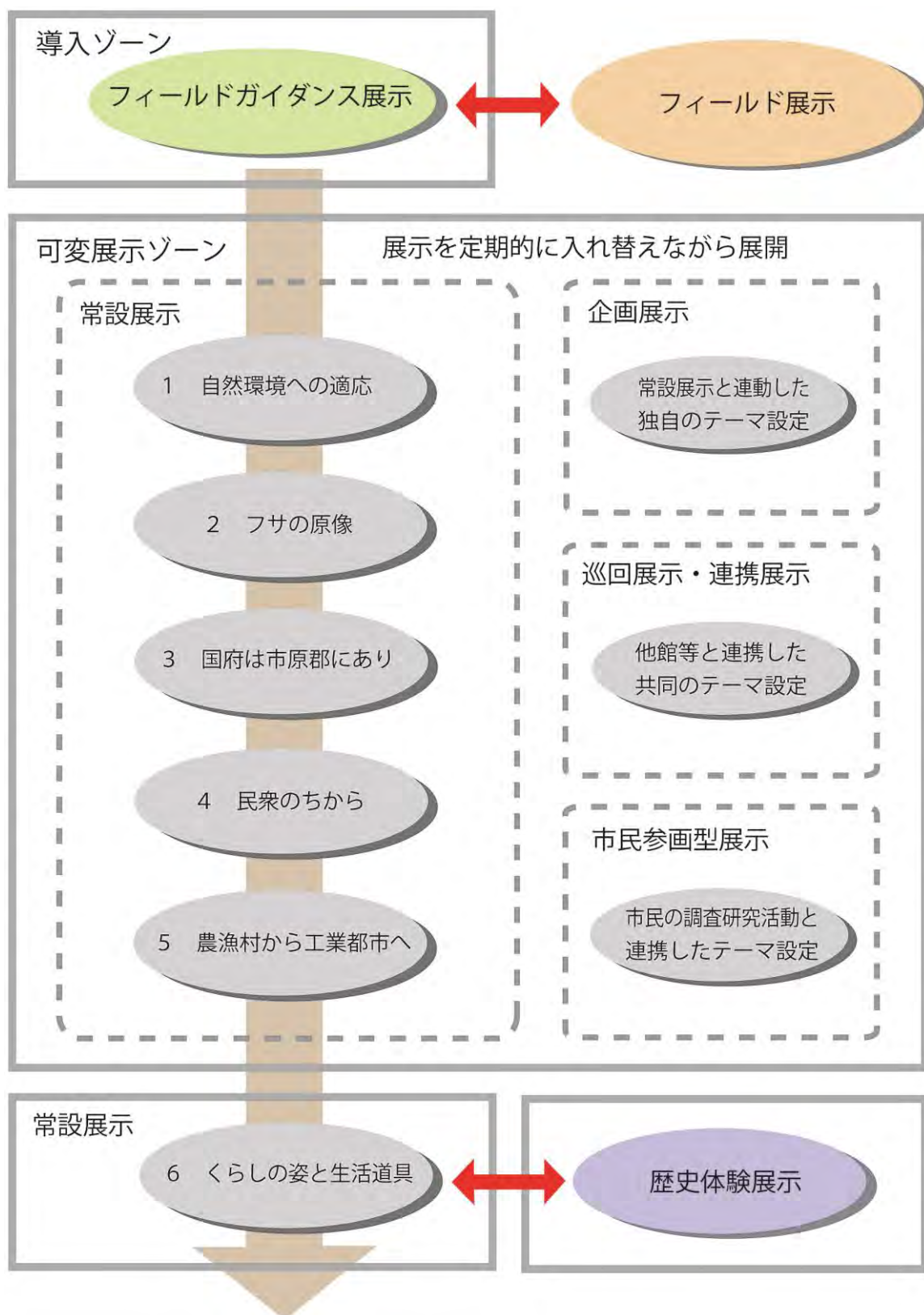
項目	主な展示資料等
1- (1) 最終氷期のハンターたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈遺跡、片又木遺跡</li> <li>・ナイフ形石器、石刃</li> <li>・産地別石材</li> </ul>
1- (2) 縄文の海の幸、山の幸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天神台遺跡、草刈貝塚、山倉貝塚、祇園原貝塚、西広貝塚</li> <li>・骨角貝製品、貝骨類、土器、石器（石鏃・磨石・石皿）</li> <li>・貝層剥ぎ取り断面、海水面変化図</li> </ul>
1- (3) 縄文人の祈り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西広貝塚、祇園原貝塚、能満上小貝塚、菊間手永貝塚</li> <li>・<b>イノシシ形土製品(市指定)</b>、土製品(土偶、土版)、石製品(石棒・石剣・石冠・玉類)、埋葬人骨</li> </ul> 
2- (1) 弥生人の横顔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能満遺跡群三島台地区、大山台遺跡、御林跡遺跡、加茂遺跡、天神台遺跡</li> <li>・<b>人面付土器(市指定)</b>、装飾壺形土器、鉄斧、有角石斧、ガラス玉、炭化米</li> <li>・市原条里制遺跡小区画水田(模型)</li> </ul> 
2- (2) 古墳出現前夜の移住者たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神門5号墳(県指定)、小田部古墳、長平台遺跡、中台遺跡、南中台遺跡、天神台遺跡</li> <li>・<b>神門3号墳出土副葬品</b>、外来系土器(近畿・東海・北陸)、船の描かれた土器、小銅鐸、鉄剣、鉄釧、銅釧</li> <li>・纏向型前方後円墳、独立棟持柱建物</li> </ul> 
2- (3) いちはらの王稜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釈迦山古墳、今富塚山古墳、諏訪台古墳群、姉崎天神山古墳(県指定)、二子塚古墳(県指定)、山王山古墳、六孫王原古墳(市指定)、稻荷台1号墳、<b>山倉1号墳</b>、江子田金環塚古墳、御座目浅間神社古墳</li> <li>・盤龍鏡、鉄鉾、「<b>王賜</b>」銘鉄剣(市指定)、人物埴輪ほか(市指定)、<b>江子田金環塚古墳出土一括遺物(県指定)</b>、単龍環頭大刀(市指定候補)、短甲、動物形埴輪</li> <li>・直弧文付き石枕(国指定)(レプリカ)</li> </ul>   

<p>3- (1) 造塔の寺は国の華</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国府推定地、古代道、稻荷台遺跡、永田・不入窯跡、上総国分寺・尼寺跡（国指定）、坊作遺跡、荒久遺跡、川焼・南田瓦窯跡、萩ノ原遺跡</li> <li>・貞観 17 年銘土器（市指定）、刑房私印（市指定）、灰釉花文浄瓶（市指定）、<b>瓦塔（市指定）</b>、緑釉陶器、小金銅仏、瓦類、墨書土器</li> <li>・『和名類聚抄』、『更級日記』、『石山寺縁起』、『国分寺建立の詔』、正倉院宝物望陀布、木簡、国分寺七重塔（レプリカ・模型）</li> </ul>	
<p>3- (2) 武士の台頭と動乱の時代</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椎津城跡（県指定）、池和田城跡、市原城跡、棗塚遺跡、新堀小鳥向遺跡、海土遺跡群、鎌倉街道</li> <li>・常滑大甕、カワラケ、宋銭、双六駒、骨角製サイコロ</li> <li>・「源 頼朝下文案」『畑田文書』、「上総国新堀郷給主得分注文」『金沢文庫古文書』、「乾元 2 年足利貞氏下文案」『倉持文書』、「永正 16 年足利高基感状写」『常総文書』（レプリカ）</li> <li>・鶴峯八幡の神楽（県指定）</li> </ul>	
<p>3- (3) ひろがる仏教世界</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西願寺阿弥陀堂（国指定）、鳳来寺観音堂（国指定）、飯香岡八幡宮（国指定）、橋禅寺、常住寺、釈蔵院</li> <li>・板碑、五輪塔、八稜鏡、水晶製数珠玉</li> <li>・「観応 3 年上総国与宇呂保浄住寺祈祷料所寄進申状案」『金沢文庫古文書』、応安 8 年上総国市原八幡国役庄役注進状『三宝院文書』、鑄造阿弥陀如来立像（市指定）、木造金剛力士像（県指定）、『釈蔵院文書』（市指定）（レプリカ）</li> </ul>	
<p>4- (1) 村の誕生と生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太閤検地、姉崎藩、潤井戸藩、高滝藩、八幡藩、五井藩、新田開発、漁権（焼塩・キサゴ）、用水、村明細帳</li> <li>・『上総姉崎領谷田之郷御縄打水帳』（市指定）、「功過格」、「松ヶ島・青柳両村塩場境御定杭打絵図」『慶応義塾大学所蔵文書』（レプリカ）</li> </ul>	
<p>4- (2) 江戸との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿場、街道往来、小柳常吉（江戸相撲）</li> <li>・米俵、炭俵、泥めんこ</li> <li>・八幡五大力船揃い図（レプリカ）、旧小倉家住宅（市指定・模型）</li> <li>・五井新田祭囃子（市指定）、根本神社の神楽（市指定）、牛久ばやし（市指定）（映像）</li> </ul>	



4-(3) いまに息づく信仰	<ul style="list-style-type: none"> <li>出羽三山信仰（県指定ほか）、熊野信仰、富士信仰、年中行事、波の伊八</li> <li>『上総国市原郡檀那場御祈禱帳』（レプリカ）</li> <li>大塚ばやし（県指定）、椎津のカラダミ（県指定）、市原の柳楯神事（県指定）（映像）</li> </ul>
5-(1) 近代化の足音とまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>八幡・五井戦争、鶴舞藩、菊間藩、鶴舞藩、藩校（修来館・明親館・克明館）、学校開設、鉄道敷設、まちづくり、灌漑・取水技術</li> <li>学校資料（読本）、小湊鉄道資料</li> <li>小湊鉄道蒸気機関車（県指定）、小湊鉄道駅舎群等（国登録）、養老川西広板羽目堰（市指定）、藤原式揚水機（模型）</li> </ul>
5-(2) 戦争の記憶	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦時中の生活</li> <li>衣類切符、外套、ゲートル、宣戦勅諭（掛け軸）</li> <li>戦争体験（映像）</li> </ul>
5-(3) 市原市の誕生、そしてこれから	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨海部の埋立て、産業の変化、企業団地とニュータウンの開発</li> <li>市原の先人たち、写真でたどる市原市の歴史、市原の主な産業、工業製品の特長</li> </ul>
6-(1) ハマの生活と塩づくり・海苔づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>製塩用具、海苔採り舟などの海苔製造用具、</li> <li>アサリやキサゴ関係の漁具や濱鍬券</li> <li>『姉崎町年中行事』</li> </ul> 
6-(2) オカの生活と生産用具	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐箕や万石通しなどの農具類</li> <li>『農具図面』、『農具書上帳』</li> <li>養蚕用具、機織用具、林業用具など</li> </ul> 
6-(3) 職人の手わざと用具	<ul style="list-style-type: none"> <li>市原式上総掘りの用具と解説（模型）</li> <li>船大工の道具と技、五大力船板図</li> <li>鍛冶屋の道具と技</li> </ul>

(4) 展示の構成イメージ



## Ⅴ 管理運営計画



## 1 基本方針

歴史遺産を核とした活動と交流の拠点として、市民に開かれ、市民とともに成長する博物館となるための管理運営を行います。

### ① 市民の参画と協働による運営体制を構築します。

市民の活動拠点となる「(仮称) いちはら歴史館」では、運営に当たっても市民の協力が不可欠です。様々な活動に参画することは、生涯学習にも通じます。市民が積極的に参画できる仕組みを構築し、活動の幅を広げられるような運営を行います。

### ② 安定的かつ持続的な管理運営を行います。

社会情勢や利用者のニーズ等に素早く対応する柔軟な管理運営を行い、博物館の事業活動を安定的かつ持続的に展開します。

維持管理や運営の効率化を図りながらも、ミュージアム事業が目指すべき姿を実現させ、果たすべき役割を確実に機能させるための管理運営を行います。

### ③ 自己評価及び外部評価により、運営に反映させます。

ランニングコストの低減を図り、効率的・効果的な事業運営に努め、経営的観点に配慮した管理運営を行います。

博物館運営協議会等の第三者委員会を設置し、博物館の目的や使命、中長期的な事業目標と計画の策定、事業の有効性や効率性、社会への貢献度等について定期的に評価・分析を行い、PDCA サイクルによる改善に取り組んで、運営に反映させます。

## 2 管理運営の方法

### (1) 基本的な考え方

「Ⅱ 事業活動計画」で示した、様々な事業活動を展開するため、以下の取組により、継続的に施設の機能向上を図ります。

また、市民学芸員（歴史文化リエゾン）や市民ボランティア等との連携・協力による運営を行います。

#### ① 学芸に関する機能

##### ア 資料の収集・保存

市民との協働により資料の収集を行い、収蔵された資料を適切に保存・管理します。

##### イ 調査・研究

計画的な調査・研究計画を立案し、市民や他自治体、大学などとの連携を図りながら行います。

##### ウ 企画・展示

常設展示の様様替えや企画展示・特別展示などの企画から開催までを行います。

#### ② 教育普及に関する機能

##### ア 学習支援

学校教育や社会教育関係者等と密に連携を図り、体験学習や展示案内など、各種教育プログラムの企画から開催まで行います。児童や生徒の校外学習、成人一般の生涯学習など、様々な学習ニーズに対応し、博物館利用の促進を図ります。

##### イ 人材育成

古文書講読等の講座や資料の扱い方等に関する講習会を開催し、地域や拠点施設で行われる資料整理や調査活動に参加する人材や、歴史遺産の担い手となる人材を育成します。

##### ウ 地域連携・地域交流

地域や拠点施設で活動を行う市民等の窓口となり、活動計画のコーディネートや成果発表・情報交換会などの開催を調整します。また、他自治体等との企画展の共同開催や同一テーマによる広域的な調査研究を企画します。

### ③ その他

#### ア 施設管理

利用者の安全管理、施設・設備の維持管理など、博物館活動の円滑な運営を行います。

#### イ 庶務

会計、庶務などの経理事務のほか、来館者の受付や施設の利用案内、各種申請の受付など、利用者が快適に博物館を利用できるように、各種サービスを行います。

#### ウ 広報・宣伝

ホームページや SNS 等の WEB 媒体、ポスターやチラシ等の印刷媒体を通じて、館外への情報発信を行います。

## (2) 管理運営の体制

### ① 組織体制の考え方

様々な博物館活動を効率的、かつ効果的に行うため、適宜、必要な職員の配置を行います。

また、ミュージアム事業で重点を置く、市民協働や博学連携を推進するため、市民や学校との調整を行うコーディネーターとしての役割を果たす人材の配置を図るほか、博物館を成長させるメンバーの一員となり、博物館活動を支援するスタッフとして重要な役割を担っていただくことになる市民学芸員(歴史文化リエゾン)や市民ボランティアについて、資料調査や体験学習等、事業の企画・運営に積極的に参画してもらう仕組みを整えます。

### ② 諮問機関等

#### ア 博物館運営協議会

博物館法第 20 条の規定により、館長の諮問機関として、学識経験者や教育関係者、市民代表等で構成する運営協議会を設置します。

#### イ 博物館活用推進委員会

博物館の活用による学校教育の推進を図るため、市内小中学校の校長及び教員等で構成する活用推進委員会を設置します。博物館と学校をつなぐパイプ役として、情報交換会、研修会、教材研究等の活動を行います。

### (3) 管理運営の形態

#### ① 管理運営の方法

「(仮称) いちはら歴史館」は、「いちはら」の過去、現在、そして未来をつなぐ拠点施設であり、収集・保管、調査・研究、公開展示のほか、市民協働、学習支援、市民ボランティアの育成など、学術的・教育的役割を永続的かつ安定的に担う必要があります。

また、資料の収集・保存や調査・研究を行い、歴史遺産として継承していくため、所有者や地域住民と信頼性や公益性に基づく関係を築くことが重要です。

管理運営を行う方法は、設置者による直営方式、管理運営を民間団体等に代行させる指定管理方式、両者を併用する方式などがありますが、上記のとおり、博物館の根幹をなす学芸機能や教育普及機能は公益性が極めて高く、事業の継続性が求められることから、市の直営を基本として、広く市民学芸員(歴史文化リエゾン)や市民ボランティアの参画・協力を求めています。

#### ② 外部業務委託等

館内清掃や警備、機械設備の保守・点検、博物館資料の燻蒸、受付業務等の施設維持管理業務については外部委託で対応し、業務の効率化や組織の合理化を図ります。

### (4) 開館形態

#### ① 開館日時

収蔵資料や展示資料、施設の維持管理を適切に行う必要があることから、週1日(毎週月曜日等)の休館日を設けます。また、資料の整理や展覧会に伴う展示更新、館内害虫駆除等による臨時休館が必要な場合は、適宜休館日を設定します。

開館時間は午前9時～午後5時を基本としますが、季節や曜日、企画展や各種イベントの開催状況に合わせて、開館時間の拡大、夜間の講座利用など、利用者のニーズを把握しながら、柔軟に対応します。

#### ③ 利用料金

博物館のあり方、周辺自治体の状況及び社会情勢などを考慮しながら、利用料金を設定します。



## (5) 利用者サービス

様々な利用者層や利用形態を想定し、きめ細やかな対応を図ります。

### ① 個人

展示解説や資料相談など、利用者からの様々な問合せに対応するレファレンスサービスの体制を整えます。調査研究等に伴う資料の館内利用については、職員の立会いにより対応します。

### ② 団体（学校・一般）

団体利用については、スムーズな利用が可能となるよう、事前申し込みと事前打合せの体制を整えます。体験学習等のスペースを開放して、オリエンテーション等の事前説明を行うほか、昼食や休憩用の場所としても利用できるようにします。

### ③ 高齢者・障がい者等

専用の駐車スペースや多機能型トイレ等を設置するほか、施設全体にユニバーサルデザインを導入し、高齢者や障がい者だけでなく、全ての人が安心して利用できる環境を整えます。

### ④ 外国人

多言語化に対応したパンフレットの作成や案内サインの設置を行うほか、展示案内等についても、スマートフォンやタブレット型端末を利用した音声・文字データの多言語化を図ります。

対応する外国語としては、英語・中国語・韓国語が想定されます。

### ⑤ 公衆無線 LAN (Wi-Fi) 環境の整備

外国人をはじめ、利用者の利便性を向上させるため、公衆無線 LAN 環境を整備します。スマートフォンやタブレット型端末、パソコンを利用して、誰もが簡単にインターネットに接続し、展示案内や歴史遺産情報、交通案内や観光情報等を入手することができるようになります。また、防災の観点からも、公共施設内に災害発生時の情報伝達手段を確保することが可能となります。

### ⑥ 案内表示

施設内には、全ての利用者がわかりやすく、使いやすいように、視覚的に

統一感を持たせたデザインによる案内表示を行います。また、市内各地に分布し、フィールドミュージアムを構成する歴史遺産についても、博物館と一体となったイメージを構築するため、共通するデザインによる案内表示の設置を検討します。

#### ⑦ ホスピタリティ

休憩スペースやミュージアムショップ等、利用者の利便性や快適性を高めるホスピタリティの提供に努めます。

特に、ミュージアムショップは博物館をPRする効果的な手段の一つであり、リピーターを確保する上でも、重要な役割を果たします。見学後の知識の定着や、更なる関心の向上を図るため、展示図録等の書籍販売を行うほか、オリジナルグッズの開発に積極的に取り組み、商品を通じて「いちはら」の歴史遺産の魅力を広くアピールします。

グッズの企画・開発やショップの運営形態については、直営や外部委託等がありますが、効率的かつ効果的な形態を検討します。

### 3 事業評価の実施

#### (1) 基本的な考え方

近年の社会・経済状況の変化を受け、博物館運営のあり方や存在意義について、点検・評価が行われるようになってきました。博物館の事業評価には、課題や成果を明らかにすることで説明責任を果たし、結果に対する改善措置を講じることで、博物館活動の質の向上を図ることが可能になります。

博物館の基本理念に基づく「使命」を策定し、これを実現するための中期目標・計画、次いで年次目標・計画について、PDCA サイクルに沿って、事業評価を行います。

#### (2) 諮問機関等の設置

事業評価の実施に当たっては、設定した評価項目について、自ら達成度を評価する自己評価を行うほか、自己評価結果や目標・計画に関する外部評価を行い、評価の妥当性を検証します。

外部評価は、館長の諮問機関となる博物館運営協議会を活用することを検討します。博物館の「使命」に即した活動を行っているかどうか、各種事業や運営に関する指導や助言を仰ぐとともに、各年度の事業点検・評価や運営改善に向けた提言を行う機関として位置付けます。

#### (3) 評価指標の設定区分

博物館活動の成果は、入館者数や事業収支などの定量的な指標だけでは測れないことから、定性的な指標との組合せにより総合的に行うことを検討します。評価基準の基本は、各博物館が果たすべき「使命」によって異なりますが、具体的な評価内容や項目については、各地の博物館の動向を参考にしながら、目標・計画の策定に合わせて検討します。

##### ① 定量評価

入館者数やホームページのアクセス件数等の数値目標を設定するもので、数値そのものが成果を示します。

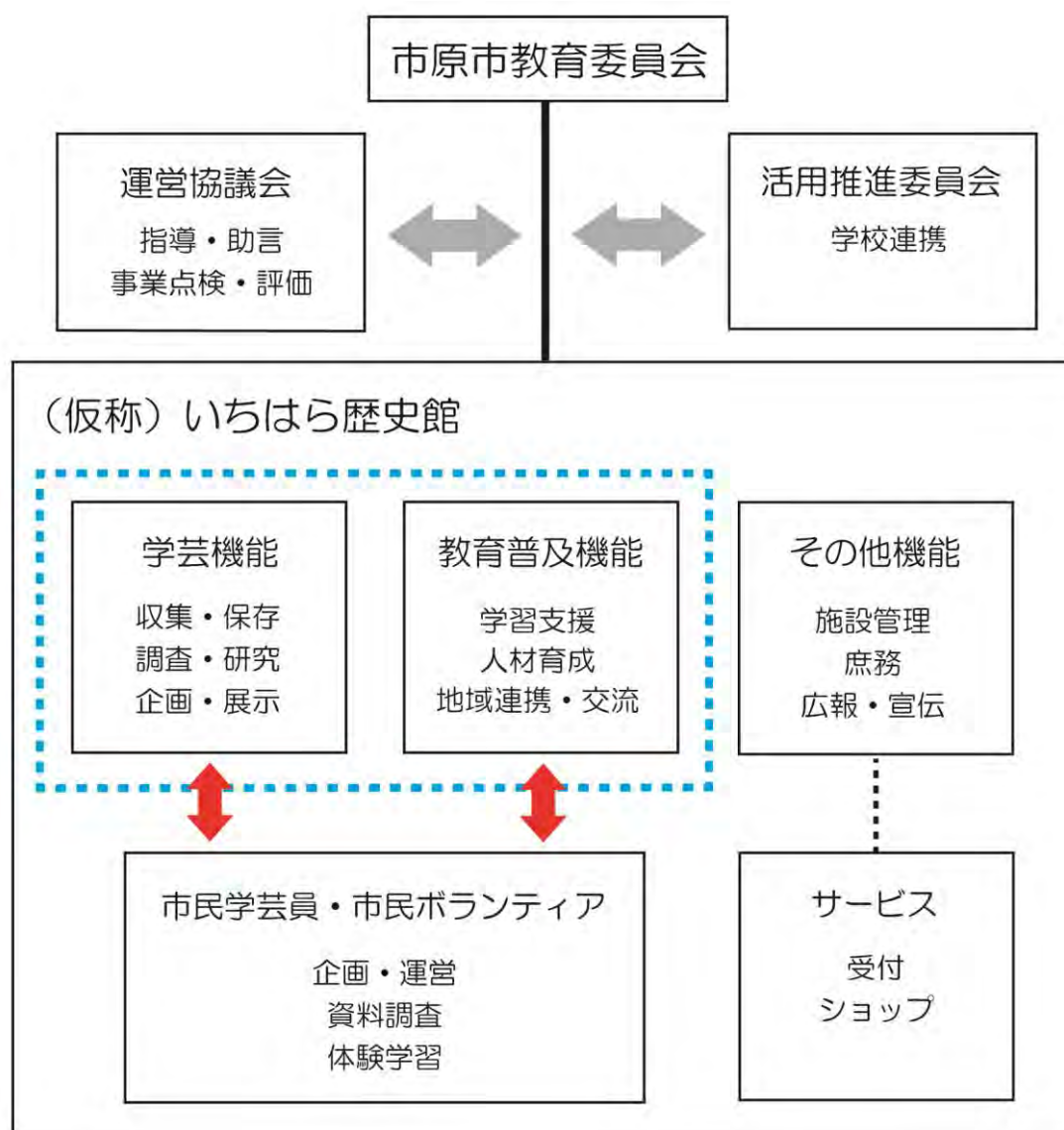
定量評価に当たっても、展示見学のための入館者数だけではなく、様々な博物館活動にかかわった利用者数という視点で行います。利用者数の目標数は、県内の博物館施設の利用状況から、3万人程度と設定します。

## ② 定性評価

数値によらない目標を設定するもので、展示活動・教育普及活動・収集保存活動・調査研究活動等の取り組みに対する効果・成果を示します。

評価結果は文章で表されるのが一般的ですが、定量的な評価に比べて客観性に乏しいため、「博物館活動に興味を持った人の割合」や「展示内容が理解できた人の割合」など、利用者の評価をアンケート等の結果を基に示し、達成状況を間接的に定量化することも必要になると考えられます。

## 管理運営のイメージ



# 資料編



## いちほら歴史のミュージアム事業基本計画策定懇話会等の検討経緯

### 平成 28 年度

#### 第 1 回懇話会

- 開催日 平成 28 年 11 月 28 日 (月)
- 開催場所 市原市埋蔵文化財調査センター 会議室
- 検討内容 基本理念・基本条件の確認と整理

#### 第 2 回懇話会

- 開催日 平成 28 年 12 月 19 日 (月)
- 開催場所 市原市埋蔵文化財調査センター 会議室
- 検討内容 活動計画について

#### 第 3 回懇話会

- 開催日 平成 29 年 1 月 30 日 (月)
- 開催場所 市原市埋蔵文化財調査センター 会議室
- 検討内容 施設計画について

#### 第 4 回懇話会

- 開催日 平成 29 年 2 月 27 日 (月)
- 開催場所 市原市埋蔵文化財調査センター 会議室
- 検討内容 展示計画について

---

#### 第 1 回意見交換会

- 開催日 平成 29 年 3 月 16 日 (木)
- 開催場所 千葉県立姉崎高等学校
- 意見交換内容  
若者の郷土意識について  
歴史遺産の保存継承と活用について  
地域活動への参画について  
求められる博物館像について  
高校教育との連携について

---

### 平成 29 年度

#### 第 1 回懇話会

- 開催日 平成 29 年 7 月 10 日 (月)
- 開催場所 市原市埋蔵文化財調査センター 会議室
- 検討内容 管理運営計画について

#### 第 2 回懇話会

- 開催日 平成 29 年 8 月 10 日 (木)
- 開催場所 市原市埋蔵文化財調査センター 会議室
- 検討内容 基本計画 (最終案) について





# いちほら歴史のミュージアム事業基本計画策定懇話会等 参加者一覧

## 【 懇話会 】

氏名	選出区分	専門分野	所属等
鷹野 光行	学識経験者	博物館学・考古学	宮城県東北歴史博物館館長（市文化財審議会委員）
香月 節子	学識経験者	民具	元東京農業大学講師（市文化財審議会委員）
立野 晃	学識経験者	近世史	鎌ヶ谷市郷土資料館館長
鎌滝 庄司	学校教育関係者	理科	市原市立辰巳台東小学校校長（～平成29年3月）
渡辺 和也	学校教育関係者	社会科	市原市立菊間小学校校長
鶴岡 三知夫	学校教育関係者	社会科	市原市立千種中学校校長
深山 康彦	社会教育関係者	市民活動	市社会教育委員（～平成29年5月）
川口 浩史	市民		
石黒 修一	市民	郷土史家	
藤田 国昭	市民		
指田 裕司	博物館関係者	博物館運営	浦安市郷土博物館館長
井口 崇	博物館関係者	博物館運営	袖ヶ浦市郷土博物館館長
植野 英夫	行政関係者	博物館設置・登録	千葉県教育庁教育振興部文化財課学芸振興室室長
大内 千年	行政関係者	博物館設置・登録	千葉県教育庁教育振興部文化財課学芸振興室副主幹

※ 平成28年11月から平成29年8月まで6回開催した懇話会の延べ参加者

## オブザーバー

西川 淳一郎	行政関係者	シティプロモーション	市原市役所企画部広報広聴課主幹
--------	-------	------------	-----------------

## 【 意見交換会 】

氏名	選出区分	専門分野	所属等
石川 陽一	学校教育関係者	地歴公民科	千葉県立姉崎高等学校教諭
千葉県立姉崎高等学校卒業生・在校生の皆さん 8名			



# 開館までのスケジュール

